# Ⅱ　学修編

## 履修するということ

大学で授業を受けるためには､高校までとは違って自ら科目を選び登録しなければなりません。この一連の行為を「履修登録」といいます。「履修登録」していない科目は、試験を受ける権利は与えられませんし、当然のことながら成績（評価）も与えられません。すなわち、正しい履修登録を行わない場合には、卒業することができないのです。

この「学生生活ハンドブック」は、学生諸君が本学で学ぶうえでのガイドブックとして作成されており、カリキュラムや授業・試験などの内容や、さまざまな手続き、決まりごとを掲載しています。詳しくは該当のページをよく読んで下さい。

また、この「学生生活ハンドブック」とともに配付した「履修のてびき」を活用し、自分の将来計画・資格取得等を充分考慮して「履修登録」を行って下さい。

現在､本学部には約1,700人の学生が在籍しています｡その履修・成績等の膨大なデータを一括して取り扱う関係上、学生諸君への伝達事項（呼び出し・時間割発表など）は、「書類配付」または「掲示」・「学生ポータルサイト（web）への掲載」で行うことになっています｡配付した書類は、必ずよく読んで下さい｡また､学内の掲示および学生ポータルサイト（web）を見る習慣を身に付けて下さい。さらに、各種手続き・提出物に関しては、提出期日を必ず守って下さい。卒業後、実社会での諸手続きの期限は実に厳格です。社会に適応する意味においても在学中から「締切日１日前の提出」を心がけて下さい。配付した書類や掲示を読んでもなお判らない場合には、学生サービス課窓口で相談して下さい。

## 学生諸君への注意事項

1　配付した書類は熟読して下さい。
2　掲示・学生ポータルサイトを必ず確認して下さい。
3　履修登録期限やレポートなどの提出期限は厳格に守って下さい。（期限後は受け付けません）
4　電話での問い合わせは原則として受け付けません。
5　学生サービス課の業務時間は［平日：月曜～金曜］８：30～17：00です。質問・相談等は業務時間内に行って下さい。

## １．授業科目と単位制

### ⑴　授業科目

授業科目は本学の教育目標を達成するために、次のように分けられ各年次に配当されています。

○必　修　科　目……その学科で必ず履修し、修得しなければならない科目。

○分野別必修科目……専攻した分野・コースごとに配当された必修科目。

○選択必修科目……人間関係分野・社会関係分野・自然関係分野の科目からそれぞれ２科目を選び必修とする。超過した場合は選択科目として扱う。

○選　択　科　目……学生の意思により選択し、卒業要件の必要単位数以上を修得しなければならない科目。

### ⑵　単 位 制

大学における単位制とは授業科目を履修し、その授業科目に与えられた単位を試験等に合格することによって修得する制度です。卒業までに定められた単位数を修得しなければなりません。

各授業科目の単位数は、授業の方法に応じて異なり当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により定められています。

［単位の計算基準］

| 区　　分 | 単位数 | 授　業　時　間 |
|---|---|---|
| 講義・演習（外国語を含む） | ２単位 | ２時間(週１コマ)×15週(半期) |
| 実験・実習､スポーツレクリェーション | １単位 | ２時間(週１コマ)×15週(半期) |

※　１時限（１コマ＝２時間）は90分授業で実施します。

## ２．授　　業

### ⑴　学 期 制（セメスター制）

本学では１年間を前学期と後学期の２学期に分け、一部の科目を除きそれぞれの学期の中で、各学期配当科目の授業・試験・成績評価を行います。したがって各学期の最終評価が不合格となった科目を履修する場合は、翌年度に再度履修し授業を受講することになります。

### ⑵ 授業時間

本学の授業は、90分を１時限として行います。なお、授業の時間区分は次のとおりです。

| 時　限 | １時限目 | ２時限目 | 昼休み | ３時限目 | ４時限目 | ５時限目 | ６時限目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時　間<br>(90分間) | 9 ：00<br>～<br>10：30 | 10：40<br>～<br>12：10 | 12：10<br>～<br>13：00 | 13：00<br>～<br>14：30 | 14：40<br>～<br>16：10 | 16：20<br>～<br>17：50 | 18：00<br>～<br>19：30 |

※　短期間に行う集中授業及び隔週で行う授業もあります。

### ⑶ 出席の重要性

授業は教員と学生が直接人間的なふれあいを通して学問する場であり、学生生活の基本となるものです。また、単位制の基本となる授業時間について定めがあるように出席状況は成績評価の重要な要素になります。なお、授業を３分の１以上欠席した場合は定期試験等を受験しても単位を修得できない場合があります。

### ⑷ 欠 席 届

授業を止むを得ない事由で欠席する場合、または欠席した場合は、学生ポータルサイトの左下にある申請書類から「授業欠席届」をダウンロードし、必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出して下さい。

### ⑸ 休　　講

休講の場合は事前に掲示により伝達します（学生ポータルサイトで掲示）。休講の掲示がなく、30分経過しても授業が開始されない場合は、学生サービス課で確認して下さい（休講情報は、学生ポータルサイトで確認できます）。

### ⑹ 補　　講

授業時間数が止むを得ぬ事情により不足した場合には、補講授業を実施することがあります。この場合、授業担当者が指示するほか掲示により伝達します（補講情報は、学生ポータルサイトで確認できます）。

### ⑺ 学生による授業評価

本学では授業をよりよくするために、学生ポータルサイト等で「学生による授業評価」を実施しています。よりよい授業を行うことは授業担当者の責務ですが、内容がきちんと受講生に伝わっているか、理解されているか、あるいは「わかりやすいか」を把握（測定）するためには授業評価を実施して受講生の声を集める必要があります。また、大学全体の授業と比較して自分の授業がどうであるかを把握するためにも授業評価は有効です。よりよい授業は授業担当者と受講生が協力して創り上げるものであるため、授業評価の実施にご協力ください。

## ３．履修計画・履修登録

### ⑴　履修計画

履修登録を行うにあたって、１年間の履修計画を立てなければなりません。次の点を考慮し計画して下さい。

○　必修科目は、決められた年次・学期に履修して下さい。

○　選択科目は、将来志向や資格取得などを考え、卒業要件を満たすように履修して下さい。

○　82ページからの「12. 配当科目一覧（各学科授業科目配当表）」と「講義要項（シラバス）」を熟読しカリキュラムの概要を把握して下さい。

○　進級基準及び卒業基準（77ページ）を超えるように、履修計画を立てて下さい。

○　生物産業学部の他学科の授業科目を履修することもできます（他学科聴講）。他学科聴講に際しては、72ページの注意事項に従って登録して下さい。

○　他学部の授業科目を履修することもできます(他学部聴講)。他学部聴講により履修できる単位数は30単位までです。修得した単位は、選択科目の卒業要件に加えることができます。他学部聴講に関する細則は別に定めています(詳細は学生サービス課で確認して下さい)。

### ⑵　履修登録

履修登録とは、各自が受講しようとする授業科目について、その意思表示をすることです。履修登録は１年間の履修計画を決める上で最も重要な手続きであり、単位の修得および卒業には欠かすことのできないものです。履修登録を安易に考え、手続きを怠ったことにより無駄な時間を過ごしてしまうことになりかねません。各自の履修計画を円滑に進めるために細心の注意を払って履修登録を行って下さい。

なお、履修登録の詳細は『履修のてびき』（別冊）に記載してあります。これを参照し履修登録を行って下さい。

**〈履修上の注意事項［取決め事項］〉**

**〔履修登録単位数の制限について〕（平成16年度より適用）**

単位を得るためには、定められた時間の学習が必要です。例えば、講義科目の場合、２単位を修得するためには、90時間の学習が必要であり、１回の授業において２時間（２時間×15週間＝30時間）学び、１週間に４時間（４時間×15週間＝60時間）の予習・復習を行うことにより、単位が与えられます。このように履修登録単位数と学習時間は連動しており、登録する単位数が多ければ１週間に学習する時間は比例して増加することになります。

本学では履修登録を行うにあたって、次のように登録できる単位数を制限しています。１週間に学習できる時間数を考えて履修登録を行うようにして下さい。なお、卒業年次生には履修登録制限はありません。また、下位学年配当科目及び教職・学術情報課程科目・特別講義・特別活動プログラムについては、この履修登録単位数の制限から除外します。

１年間に履修登録できる単位数の上限……50単位（他学科・他学部聴講を含む）

各学期に履修登録できる単位数の上限……26単位（他学科・他学部聴講を含む）

例えば前学期配当科目を26単位登録した場合には、後学期配当科目で登録できる単位数は24単位になります。

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありませんので、注意して下さい。

〔有料科目について〕

一度履修して不合格になった科目を再び履修（再履修）する場合は有料になり（指定された一部の科目を除く）、１科目につき所定の金額を納付することになります。詳細は「履修のてびき」で確認して下さい。

〔他学科聴講履修登録注意事項〕

１．在学期間中に履修できる単位数制限

生物産業学部では在学期間中に、他の学科の授業科目を30単位まで履修登録することができます(修得した単位は30単位まで選択科目として卒業要件単位に加えることができます)。

履修できる単位数（合否にかかわらず、履修した時点で単位数をカウントします。また、再履修をした場合、再度単位数がカウントされます）が決まっていますので本ハンドブックを熟読し、卒業するまでの履修計画を立てて下さい（むやみに履修すると履修したい科目が出て来ても履修することができなくなります)。

２．上級学年配当の科目は履修することができません。

３．原則として講義科目のみ他学科聴講できます。実験、実習、演習科目〔ロシア語（三)、(四)、中国語（三)、(四）は除く〕は履修できません。

４．学部共通科目等自学科の授業科目と同名の授業科目については他学科聴講できません。

５．他学科の同名の授業科目を同時に履修することはできません。また、単位を修得した授業科目と同名科目を履修することはできません（『履修のてびき』他学科聴講同名科目一覧参照)。

〔メディアを利用して行う授業について〕

82ページからの「12. 配当科目一覧（各学科授業科目配当表)」の表中で、備考欄に「メディア」と記載した科目は、マルチメディアを利用して世田谷・厚木キャンパスと合同で行う遠隔授業です。

本学では、大学設置基準（第32条第５項）に基づき、該当科目の修得単位を卒業要件単位として認めています。

### ⑶　履修登録の確認

履修登録した授業科目が正確に表示されているか学生ポータルサイトにて必ず確認して下さい。

※　エラーメッセージがない場合も必ず確認して下さい。誤った科目が登録されていることもあります。

### ⑷　履修の修正

授業科目が誤って登録されていたり、エラー表示がある場合の訂正および登録科目の追加等は、指定された履修修正期間に修正をして下さい。

※　エラー表示のある科目を訂正しない場合には、その科目の登録は無効になります。

### ⑸　履修の確定

履修修正終了後、学生ポータルサイトに掲載され、常時同サイトで自分の「履修確定表」を見ることができます。この表に記載されている授業科目が当該年度の登録された科目です。

## 4．試　　験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験を行います。授業科目によっては、レポートに代える場合や授業中に試験を行う場合があります。授業に出席し授業担当者の指示に従って下さい。

### ⑴　受験資格

①　当該授業科目を履修登録していること。

②　当該授業担当者の定める出席日数を満たしていること（原則として授業日数の⅔以上）。

③　当該学期までの学費その他の納付金を納入していること。

※　休学期間中に試験を受けることはできません。

### ⑵　定期試験

定期試験は一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験です。詳しくは試験開始１週間前に学生ポータルサイトで発表します（実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しません）。

なお、定期試験を病気その他止むを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日（試験時間割発表時に掲示）までに欠席の事由を証明する書類を持参し、試験欠席の手続きを行って下さい。この届出により、追試験の受験を認めます。

欠席事由と添付提出書類は次のとおりです。

| 欠　席　事　由 | 提　　出　　書　　類 |
|---|---|
| 病気 | 医師の診断書(試験当日の健康状態を記載のものに限る) |
| 交通機関の遅延 | 交通機関発行の遅延証明書 |
| 忌引(３親等までの親族の死亡) | 死亡に関する書類（会葬通知等） |
| 就職試験等 | 就職活動内容届(キャリア・エクステンション課の指示を受けること) |
| 災害（水害・火災等） | 官公庁による被災証明書 |
| その他 | 公的に認められる書類 |

※詳細は関係窓口で確認して下さい。
※自家用車等で通学する学生が事故等で試験を欠席した場合は追試験の対象となりません（なるべくバスを利用すること)。

### ⑶　定期試験に関する注意事項

○　試験時間は50分間です。通常の授業時間とは異なるので注意して下さい。
○　学生証を所持していない学生は受験できません。なお、当日忘れた場合は、学生サービス課にて「仮学生証」の発行を受けて下さい（有料／500円・当日限り有効)。
○　受験科目が重複した場合は、指定された期日（試験時間割発表時に掲示）までに学生サービス課窓口へ申し出て下さい。
○　答案は白紙であっても必ず提出して下さい。
○　不正行為が発覚した場合には、それ以前に受験した科目の評価をすべて無効（未評価）とします。
○　試験場においては、すべて監督者の指示に従わなければなりません。
○　その他試験に関しては学生サービス課窓口へ問い合わせて下さい。**なお、試験に関する詳しい注意事項等は、試験時間割発表時に、学生ポータルサイトでお知らせします。**

### ⑷ 追 試 験

定期試験を病気その他止むを得ない事由により受験できなかった者のうち、指定された期日までに試験欠席届を提出した者に対して行う試験です（無料）。また、本人の不注意による試験の欠席および証明する書類がない場合には、追試験の対象となりません。

※　追試験を欠席した場合の再度の試験は行いません。

### ⑸ 再 試 験

成績が「不可」となった科目に対して行う試験です（有料／１科目2,000円）。ただし、実験・実習・演習科目は再試験を行いません。

また、再試験の結果、合格した場合の評価は原則として「可」となります。

※　再試験を欠席した場合の再度の試験は行いません。

## ５．成　　績

### ⑴ 成績評価

成績評価は、「秀」「優」「良」「可」が合格で、「不可」「未評価」は不合格です。成績評価の基準は、次の通りです。

成績評価基準のガイドライン

| 判 定 | 成 績 | 表示 | 成績評価基準 | ＧＰ | 成 績 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 合　格 | 秀 | S | 100～90点 | 4.0 | 特に優れた成績 |
| | 優 | A | 89～80点 | 3.0 | 優れた成績 |
| | 良 | B | 79～70点 | 2.0 | 妥当と認められる成績 |
| | 可 | C | 69～60点 | 1.0 | 合格と認められる成績 |
| 不合格 | 不可 | D | 59点以下 | 0 | 合格と認められる成績に達していない |
| | 未評価 | F | － | 0 | 評価に値しない |

### ⑵　ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）

1)ＧＰＡ

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、平成18年度入学生からＧＰＡを算出。

2)ＧＰＡ対象科目

ＧＰＡの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「５段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とします。したがって、他学科・他学部聴講科目などは含め、教職・学術情報課程や特別活動プログラムおよび認定科目は除かれます。

3)ＧＰＡの算出

［学期ごとのＧＰＡの算出方法］

学期ごとのＧＰＡ算出は、次の式によります。

$$\frac{\text{(当該学期で履修登録したＧＰＡ対象科目のＧＰ×その科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期で履修登録したＧＰＡ対象科目の単位数の合計}}$$

注１．ＧＰＡ対象科目で不可（Ｄ）および未評価（Ｆ）科目は、分母に含みます。
注２．通年科目は後学期に含めＧＰＡを算出します。
注３．「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、ＧＰＡを算出します。
注４．前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期に遡りＧＰＡは変更しません。

［通算ＧＰＡの算出方法］

通算ＧＰＡは、在学中に履修登録したすべてのＧＰＡ対象科目に基づくもので、その算出は次の式によります。

$$\frac{\text{(在学中に履修登録したＧＰＡ対象科目の最新ＧＰ×その科目の単位数)の合計}}{\text{在学中に履修登録したＧＰＡ対象科目の単位数の合計}}$$

注１．通算ＧＰＡは毎学期末に算出します。
注２．再履修した場合は１科目としてカウントします（ダブルカウントしない）。
注３．再履修した科目のＧＰは、最新の評価に基づく値で算出します。

### ⑶　成績発表

前年度までに履修した授業科目の成績は、新年度の授業開始前に学生ポータルサイトの「あなたの成績台帳」で発表します。

なお、定期試験の結果は前学期９月上旬、後学期２月中旬に学生ポータルサイトの「あなたの履修」で発表します。

### ⑷　成績証明書

成績証明書には、「秀」「優」「良」「可」の合格した授業科目（科目名・単位数・評価）のみを記載し、不合格の授業科目は記載しません。

## ６．進級（平成19年度入学生より適用）

２年次終了時に３年次への進級判定があります（休学者を除く）。

原則として、２年次終了時に卒業要件に関わる修得単位数が50単位未満の場合には、３年次への進級を認めません（原級または学則第35条第１項第２号に該当する退学を命ずることがあります）。

## ７．卒業・学位

### ⑴　卒業要件

卒業に必要な単位数は「124単位」です。

〔学科別卒業要件単位数〕

| 学　科　名 | 必　修 | 選択必修 | 分野別必修 | 選　択 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生物生産学科 | 41 | 12 | 4 | 67 | 124 |
| アクアバイオ学科 | 52 | 12 | 8 | 52 | 124 |
| 食品香粧学科 | 61 | 12 | － | 51 | 124 |
| 地域産業経営学科 | 60 | 12 | 16 | 36 | 124 |

※　生物生産学科の分野別必修科目は、専攻した分野以外の分野別必修科目は原則として履修することができません。

※　アクアバイオ学科及び地域産業経営学科の専攻した分野以外の分野別必修科目は選択科目として履修することができます。

※　他学科・他学部聴講で修得した単位は、30単位まで選択科目に加えることができます。

※　詳細については、82ページからの学科別授業科目配当表を参照して下さい。

### ⑵　学　位

生物生産学科、アクアバイオ学科及び食品香粧学科の卒業生には、学士（農学）、地域産業経営学科の卒業生には、学士（経営学）の学位を授与します。また卒業時に学位記を授与します。

### ⑶　９月卒業

次の各項目をすべて満たす場合は、９月30日付で卒業とします。

○９月30日までに卒業要件単位を満たしていること

（９月30日までに卒業論文の評価が合格になった場合を含みます）

○９月30日で４年間在学していること

○４年次を通算で１年間以上在籍していること

○該当学生が９月卒業を希望していること

## 8．そ の 他

### ⑴ 学生への連絡と掲示

学生への通知や連絡は、すべて学生ポータルサイトによる掲示によって行います。休講、補講、教室変更、時間変更、手続書類不備の呼出し等を掲示しますので、必ず学生ポータルサイトを見る習慣をつけて下さい。

なお、電話による問い合わせ（行事予定、試験、休講等）には応じません。学生ポータルサイトで確認するか、担当窓口で直接聞いて下さい。

### ⑵ 窓口受付

履修に関する相談、学籍異動の願い出、試験に関する質問、修学上必要な事項の相談・質問等は学生サービス課の窓口へ直接申し出て下さい。

**学生サービス課窓口受付時間（夏季休業期間中は時間変更があるので確認のこと）**

８：30～17：00（月曜日から金曜日）

### ⑶ レポート提出時の注意事項

レポートの提出は、担当教員が授業中に提出を求める場合、担当教員が締切期日を指定して研究室等で受け付ける場合、学生サービス課窓口で受け付ける場合等があります。

いずれの場合も**提出締切厳守**となっていますので注意して下さい。

レポートの提出に際しては、原則として次の注意事項に従って下さい。

○表紙を含め用紙のサイズは、授業担当者の指示がない限りＡ４にして下さい。

○必要事項（科目名・担当者・課題・学科・学年・学籍番号・氏名）をもれなく記載して下さい。

○原則として左上角をホッチキスで必ず止めて下さい。ただし、授業担当者の指示がある場合はそれに従って下さい。

○定められた場所に提出して下さい。

○期限は厳守して下さい。

○表紙のないレポートや、記載内容に不備があるレポートは、無効になる場合があります。

○WEBサイト等から文書をコピーアンドペーストして完成させたレポートは評価の対象になりません。文章を引用する場合は必ず引用元（URLなど）とその取得日を明記するだけでなく、根拠となる原著文献を調べて記載しましょう。

〈レポート表紙の様式〉　　Ａ４サイズ

科目名：＿＿＿＿　担当者：＿＿＿＿

〈課題〉

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学科：＿＿＿　学年：＿＿　学籍番号：＿＿＿＿

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿

### ⑷ 証明書の発行

① 証明書の種類

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、卒業証明書等があります。各証明書の有効期限は、発行日から３ケ月です。

② 証明書の申し込み方法

上記の証明書の発行手数料は１通につき200円です。ただし、英文の場合は１通につき300円となります。発行は『証明書自動発行機』にて自動発行されるものと窓口にて発行されるものがあります（詳細は24ページ参照のこと）。英文の証明書についてはすべて窓口発行です。多少時間がかかる場合がありますので早目に申請して下さい。

③ 卒業見込み証明書の発行条件

３年次終了時点で修得単位数が原則90単位以下の場合には発行しないものとします。４年次前学期の修得単位数が90単位以上となった場合には、発行できるものとします。

## ９．各種資格取得について

### ⑴ 教員免許状取得について

本学部の学生は、所定の受講料を納付した後、教育職員免許法第５条の規定により定められた基礎資格と大学における教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目等について所定の単位を修得することにより、下記の教員免許を取得することができます。

なお、教員免許状取得に関する詳細は「教職・学術情報課程」（別冊）に記載してありますのでこれを参照して下さい。

〔学科別免許状取得教科一覧〕

| 学　科　名 | 免許状の種類及び教科 | |
|---|---|---|
| | 中学校教諭<br>一種免許状 | 高等学校教諭<br>一種免許状 |
| 生物生産学科 | ― | 農　業 |
| アクアバイオ学科 | 理　科 | 理　科 |
| 食品香粧学科 | 理　科 | 理　科 |
| 地域産業経営学科 | 社　会 | 公　民 |

### ⑵ 学芸員資格について

本学部の学生は、所定の受講料を納付した後、博物館法第５条第１号の規定により卒業要件を満たし、博物館に関する所定の単位を取得した者に対し資格の証明として「博物館に関する科目の単位修得証書」を授与します。

なお、学芸員資格に関する詳細は「教職・学術情報課程」（別冊）に記載してありますのでこれを参照して下さい。

### ⑶　食品香粧学科学生の毒物および劇物取扱責任者

食品香粧学科の学生は、在学中に化学に関する授業科目（☆印）のうち、28単位以上修得し、卒業することによって、「毒物及び劇物取扱責任者」の任用資格を得ることができます（86ページ～88ページ食品香粧学科授業科目配当表参照）。詳細については学生サービス課窓口にて問い合わせ下さい。

### ⑷　食品香粧学科学生の食品衛生管理者および食品衛生監視員

食品香粧学科の学生は、在学中に食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する選択科目（◎印）を修得し、卒業することによって、「食品衛生管理者および食品衛生監視員」の任用資格を得ることができます（86ページ～88ページ食品香粧学科授業科目配当表参照）。詳細については学生サービス課窓口にて問い合わせ下さい。

### ⑸　地域産業経営学科学生の社会調査士

社会調査士とは社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場の動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会（以下、協会）が認定する資格です。協会が定めた標準カリキュラムに対応した社会調査に関する講義の単位を取得した後に協会に申請することで資格を取得することができます。

地域産業経営学科では、社会調査士資格制度に参加しています。つまり、協会が定めた標準カリキュラムに対応した７つの講義の単位を取得すれば、別途試験等を受けなくても資格を取得することができるのです。開講する講義は、右の表を参照してください。

社会調査士は『就職が絶対的に有利な資格』『この職業に就くためには必須の資格』とまでは言えません。しかし、この資格を取得すれば、社会調査の専門家として、社会調査を企画・実施・分析を主要な業務とする調査研究機関だけでなく、企業の調査部門（消費者対応や商品開発など）をはじめ、地方自治体、中央官庁など様々な業種・業界で活躍できる基本的スキルが身についていると見なされます。また、「大学の勉強で、顧客や消費者のニーズを探るなどの調査方法や収集したデータをしっかり分析することができる能力を身に付け、その資格も取得しました。」と自己ＰＲすることもできます。情報化社会を生きる現代、世の中にあふれている情報を適切に整理・分析できるスキルが身についていることは、ビジネスパーソンとして求められる素養の一つではないでしょうか。

簡単ではありませんが、大学の講義を履修することで取得できる資格ですので、チャレンジしてみてはどうでしょうか？

※社会調査士の資格は、大学を通して申し込みます（申請手続料も必要になります）。詳しくは対象学生に個別に案内しますが、協会のwebページでも確認することができます。

〇社会調査士資格認定科目

地域産業経営学科で、社会調査士の資格認定を受けるためには、次の講義の単位を取得してください。

| 科目 | 内　　容 | 設　定　科　目 | 開講年次 |
|---|---|---|---|
| A | 社会調査の基本的事項に関する科目 | 社会調査論 | １年 後期 |
| B | 調査設計と実施方法に関する科目 | オホーツク産業実習：ｃクラス | ２年 前期 |
| C | 基本的な資料とデータの分析に関する科目 | 統計学：地域産業経営開講クラス | １年 後期 |
| D | 社会調査に必要な統計学に関する科目 | 経営統計分析 | ２年 前期 |
| E | 量的データ解析の方法に関する科目 | 地域産業経営実務演習(一)：ａクラス | ２年 後期 |
| G | 社会調査の実習を中心とする科目 | 社会調査実習(一) | ３年 前期 |
| | | 社会調査実習(二) | ３年 後期 |

※G科目は、同一年度に「社会調査実習（一)」と「社会調査実習（二)」をセットで履修した場合に限り、「社会調査士」の資格要件として認められます。

※G科目では、休日や夏季、冬季休暇中に実習等を行う場合があります。また、実習費（現地調査にかかわる交通費、宿泊費などの自己負担）が必要になることがあります。

## 10. 他大学との単位互換について

本学部では、北見工業大学および日本赤十字北海道看護大学との交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、各大学の授業科目を履修し、単位を修得することができます。詳細については学生サービス課窓口にて問い合わせ下さい。

## 11. 地域産業経営学科学生の単位互換について

本学部地域産業経営学科の学生は、東京情報大学総合情報学部情報ビジネス学科間において、多様な学習機会の提供と相互交流の活性化を図ることを目的とし、「国内留学生」として東京情報大学に滞在し単位を修得することができます。詳細については学生サービス課窓口にて問い合わせ下さい。

## 12. 配当科目一覧（東京農業大学学則第15条別表第一適用）

### (1) 生物生産学科授業科目配当表

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 総合教育科目 | 全学共通 | 導入科目 | 必 | フレッシュマンセミナー | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 学部共通 | 人間関係科目＊ | 選必 | コミュニケーション学・心理学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 宗教と人間 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 倫理学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 文学・芸術 | 2 | | L2 | | | |
| | | 社会関係科目＊ | 選必 | 日本国憲法 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 地理学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 現代社会の諸問題・国際関係論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 生物産業史 | 2 | | L2 | | | |
| | | 自然関係科目＊ | 選必 | 化学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 数学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 生物学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 地学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 統計学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 物理学 | 2 | | L2 | | | |
| | 全学共通 | 課題別科目 | 選 | 食料生産と自然環境(農学部) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | | | 選 | バイオテクノロジーと生活(応用生物科学部) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 環境と人間(地域環境科学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 世界の中の農(国際食料情報学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 寒冷地の生物産業(生物産業学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 特別講義(一) | 2 | FL2 | | | | |
| | | | 選 | 特別講義(二) | 2 | | FL2 | | | |
| | | | 選 | 特別講義(三) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | 特別講義(四) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(一) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(二) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | 全学共通 | 英語科目 | 必 | 英語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(三) | 2 | | F2 | | | |
| | | | 必 | 英語(四) | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | 英会話(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 英会話(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ビジネス英語 | 2 | | | | L2 | |
| | | | 選 | 科学英語 | 2 | | | | F2 | |
| | 学部共通 | 初修外国語科目 | 選 | 中国語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 中国語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 全学共通 | スポーツ関係科目 | 選 | スポーツ・レクリエーション(一) | 1 | F2 | | | | |
| | | | 選 | スポーツ・レクリエーション(二) | 1 | L2 | | | | |
| | | 就職準備科目 | 選 | キャリアデザイン | 1 | | F1 | | | |
| | | | 選 | インターンシップ | 1 | | | FL1 | | |
| | | | 選 | ビジネスマナー | 1 | | L1 | | | |
| | | 演習科目 | 必 | 共通演習 | 1 | L1 | | | | |
| | 学部共通 | 教育リメディアル科目 | 選 | 基礎生物 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 基礎化学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 基礎数学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 文章表現 | 2 | F2 | | | | |

注）• 区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。
• 週時間数欄のFは前学期配当科目、Lは後学期配当科目、FLは通年配当科目を表す。
• 備考欄の「農」は高等学校教諭（農業）一種免許状取得に関する選択科目を表す。
• 備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。
• 中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一ヵ国語に限り選択することができる。
• 授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

| 分野 | | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 専門共通科目 | | 必 | 生物産業学概論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | | 必 | 生物産業体験実習 | 1 | FL1 | | | | 農 |
| | | | | 選 | バイオテクノロジー概論 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 生物資源概論 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | アクアバイオ学概論 | 2 | L2 | | | | |
| | | | | 選 | 食品科学概論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | | 選 | 現代社会論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | | 選 | 流通経済論 | 2 | | | L2 | | |
| | | | | 選 | スポーツの科学 | 2 | | F2 | | | |
| | | 創生型科目 | | 選 | オホーツク学 | 2 | | F2 | | | |
| | | 学際領域科目 | | 選 | 現代環境論 | 2 | L2 | | | | |
| | | | | 選 | 産業気象学 | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選 | 食品開発論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | | 選 | 農水産業経営経済論(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | | 選 | 農水産業経営経済論(二) | 2 | | | L2 | | |
| 専門教育科目 | 学科専門 | 専門基礎科目 | | 必 | 生物資源各論 | 2 | L2 | | | | 農 |
| | | | | 必 | 計量生物学 | 2 | | L2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 細胞生物学 | 2 | | L2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 分子生物学 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | バイオケミストリー | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 土壌肥料学 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 実験動物学 | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選 | 生態学 | 2 | | L2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 動物生理学 | 2 | | | L2 | | 農 |
| | | 専門コア科目 | 植物生産分野 | 選必 | 植物生産学(一) | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選必 | 植物生産学(二) | 2 | | | L2 | | 農 |
| | | | | 選 | 作物学 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 植物分子生理学 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 園芸学 | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選 | 植物病理学 | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | 動物生産分野 | 選必 | 動物生産学(一) | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選必 | 動物生産学(二) | 2 | | | L2 | | 農 |
| | | | | 選 | 動物生殖工学 | 2 | | L2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 動物バイオテクノロジー | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選 | 動物栄養学 | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選 | 動物生産管理学 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | 生物資源保全分野 | 選必 | 生物資源保全学(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | | 選必 | 生物資源保全学(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | | 選 | 動物遺伝学 | 2 | | F2 | | | 農 |
| | | | | 選 | 野生動物の行動と保全 | 2 | | | L2 | | |
| | | | | 選 | 育林学 | 2 | | | F2 | | 農 |
| | | | | 選 | 森林環境科学 | 2 | | L2 | | | 農 |
| | | 総合化科目 | | 必 | 生物生産学実験(基礎編) | 2 | FL2 | | | | 農 |
| | | | | 必 | 生物生産学実習(一) | 1 | FL1 | | | | 農 |
| | | | | 必 | 基礎生物・化学実験(一) | 2 | FL2 | | | | 農 |
| | | | | 必 | 基礎生物・化学実験(二) | 2 | | FL2 | | | 農 |
| | | | | 必 | 生物生産学実験(応用編) | 2 | | FL2 | | | 農 |
| | | | | 必 | 生物生産学実習(二) | 2 | | FL2 | | | 農 |
| | | | | 必 | 生物生産学特別実験・実習 | 2 | | | FL2 | | |
| | | | | 必 | 生物産業学演習(一) | 1 | | | F1 | | |
| | | | | 必 | 生物産業学演習(二) | 1 | | | L1 | | |
| | | | | 必 | 卒業論文 | 4 | | | | | |

| 卒業要件単位数 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修 | 選択必修 | 分野別必修 | 選択 | 計 |
| 41 | 12 | 4 | 67 | 124 |

＊人間関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする
＊社会関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする
＊自然関係分野の科目は6科目中から2科目を選び必修とする
＊原則、専門コア科目の選択必修科目は他分野他学科から履修することはできない。

## (2) アクアバイオ学科授業科目配当表

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 総合教育科目 | 共通全学 | 導入科目 | 必 | フレッシュマンセミナー | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 学部共通 | 人間関係科目＊ | 選必 | コミュニケーション学・心理学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 宗教と人間 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 倫理学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 文学・芸術 | 2 | | L2 | | | |
| | | 社会関係科目＊ | 選必 | 日本国憲法 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 地理学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 現代社会の諸問題・国際関係論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 生物産業史 | 2 | | L2 | | | |
| | | 自然関係科目＊ | 選必 | 化学 | 2 | F2 | | | | ㊞ |
| | | | 選必 | 数学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 生物学 | 2 | F2 | | | | ㊞ |
| | | | 選必 | 地学 | 2 | L2 | | | | ㊞ |
| | | | 選必 | 統計学 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 選必 | 物理学 | 2 | | L2 | | | ㊞ |
| | 全学共通 | 課題別科目 | 選 | 食料生産と自然環境(農学部) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | | | 選 | バイオテクノロジーと生活(応用生物科学部) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 環境と人間(地域環境科学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 世界の中の農(国際食料情報学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 寒冷地の生物産業(生物産業学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 特別講義(一) | 2 | FL2 | | | | |
| | | | 選 | 特別講義(二) | 2 | | FL2 | | | |
| | | | 選 | 特別講義(三) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | 特別講義(四) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 全学共通 | 英語科目 | 必 | 英語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(三) | 2 | | F2 | | | |
| | | | 必 | 英語(四) | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | 英会話(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 英会話(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ビジネス英語 | 2 | | | | L2 | |
| | | | 選 | 科学英語 | 2 | | | | F2 | |
| | 学部共通 | 初修外国語科目 | 選 | 中国語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 中国語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 全学共通 | スポーツ関係科目 | 選 | スポーツ・レクリエーション(一) | 1 | F2 | | | | |
| | | | 選 | スポーツ・レクリエーション(二) | 1 | L2 | | | | |
| | | 就職準備科目 | 選 | キャリアデザイン | 1 | | F1 | | | |
| | | | 選 | インターンシップ | 1 | | | FL1 | | |
| | | | 選 | ビジネスマナー | 1 | | L1 | | | |
| | | 演習科目 | 必 | 共通演習 | 1 | L1 | | | | |
| | 学部共通 | 教育リメディアル科目 | 選 | 基礎生物 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 基礎化学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 基礎数学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 文章表現 | 2 | F2 | | | | |

注）
- 区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。
- 週時間数欄のＦは前学期配当科目、Ｌは後学期配当科目、ＦＬは通年配当科目を表す。
- 備考欄の「理」は中学校及び高等学校教諭（理科）の一種免許状取得に関する選択科目を表す。
  なお「㊞」は同免許状取得に関する必修科目である。
- 備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。
- 中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一ヵ国語に限り選択することができる。
- 授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 専門共通科目 | 必 | 生物産業学概論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 生物産業体験実習 | 1 | FL1 | | | | |
| | | | 選 | バイオテクノロジー概論 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 選 | 生物資源概論 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 選 | アクアバイオ学概論 | 2 | L2 | | | | 理 |
| | | | 選 | 食品科学概論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 現代社会論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 流通経済論 | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | スポーツの科学 | 2 | | F2 | | | |
| | | 創生型科目 | 選 | オホーツク学 | 2 | | F2 | | | |
| | | 学際領域科目 | 選 | 現代環境論 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | 産業気象学 | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 食品開発論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 農水産業経営経済論(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 農水産業経営経済論(二) | 2 | | | L2 | | |
| 専門教育科目 | 学科専門 | 専門基礎科目 | 必 | 野外調査学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 必 | 基礎分子生物学 | 2 | F2 | | | | 理 |
| | | | 必 | 海洋の科学史 | 2 | F2 | | | | 理 |
| | | | 必 | 水圏無脊椎動物学 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 必 | 進化生態学 | 2 | | L2 | | | |
| | | | 必 | 魚類学 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 必 | 水圏動物生理学 | 2 | | L2 | | | 理 |
| | | | 必 | 水圏生態学 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 必 | 水圏環境学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | アクアバイオ学特別講義(一) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | アクアバイオ学特別講義(二) | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 水産の法律学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 水圏植物学 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 選 | 数理生物学 | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 水産動物発生学 | 2 | | F2 | | | 理 |
| | | | 選 | 水産微生物学 | 2 | | L2 | | | 理 |
| | | | 選 | プランクトン学 | 2 | | L2 | | | 理 |
| | | | 選 | 水圏の環境情報学 | 2 | | L2 | | | 理 |
| | | 専門コア科目 水産資源分野 | 選必 | 水圏資源学 | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選必 | 進化からみた水産生態学 | 2 | | | F2 | | 理 |
| | | | 選必 | 海棲哺乳類学 | 2 | | | L2 | | 理 |
| | | | 選必 | 個体群生態学 | 2 | | | L2 | | |
| | | 専門コア科目 アクアバイテク分野 | 選必 | 水産バイオテクノロジー | 2 | | | F2 | | 理 |
| | | | 選必 | 水圏生物病理学 | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選必 | 水圏生物化学 | 2 | | | L2 | | 理 |
| | | | 選必 | 集団遺伝学 | 2 | | | L2 | | 理 |
| | | 専門コア科目 オホーツク水圏環境分野 | 選必 | 海洋の環境生物学 | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選必 | 氷海の生態学 | 2 | | | L2 | | 理 |
| | | | 選必 | 氷海の環境学 | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選必 | 水圏のモニタリング | 2 | | | L2 | | |
| | | 総合化科目 | 必 | アクアバイオ基礎実験(一) | 2 | FL1 | | | | 理 |
| | | | 必 | オホーツク臨海実習(一) | 1 | FL1 | | | | |
| | | | 必 | アクアバイオ基礎実験(二) | 2 | | FL1 | | | 理 |
| | | | 必 | オホーツク臨海実習(二) | 1 | | FL1 | | | |
| | | | 必 | アクアバイオ専攻実験(一) | 2 | | | FL1 | | 理 |
| | | | 必 | アクアバイオ演習(一) | 1 | | | F1 | | |
| | | | 必 | アクアバイオ演習(二) | 1 | | | L1 | | |
| | | | 必 | アクアバイオ演習(三) | 1 | | | | F1 | |
| | | | 必 | アクアバイオ演習(四) | 1 | | | | L1 | |
| | | | 必 | 卒業論文 | 4 | | | | | |

| 卒業要件単位数 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修 | 選択必修 | 分野別必修 | 選択 | 計 |
| 52 | 12 | 8 | 52 | 124 |

＊人間関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする
＊社会関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする
＊自然関係分野の科目は6科目中から2科目を選び必修とする
＊専門コア科目の選択必修科目を他分野から履修する場合は、選択科目とする。

## ⑶　食品香粧学科授業科目配当表

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 総合教育科目 | 共通全学 | 導入科目 | 必 | フレッシュマンセミナー | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 学部共通 | 人間関係科目＊ | 選必 | コミュニケーション学・心理学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 宗教と人間 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 倫理学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 文学・芸術 | 2 | | L2 | | | |
| | | 社会関係科目＊ | 選必 | 日本国憲法 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 地理学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 現代社会の諸問題・国際関係論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 生物産業史 | 2 | | L2 | | | |
| | | 自然関係科目＊ | 選必 | 化学 | 2 | F2 | | | | 理☆ |
| | | | 選必 | 数学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 生物学 | 2 | F2 | | | | ㊟ |
| | | | 選必 | 地学 | 2 | L2 | | | | ㊟ |
| | | | 選必 | 統計学 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 物理学 | 2 | | L2 | | | ㊟ |
| | 全学共通 | 課題別科目 | 選 | 食料生産と自然環境(農学部) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | | | 選 | バイオテクノロジーと生活(応用生物科学部) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 環境と人間(地域環境科学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 世界の中の農(国際食料情報学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 寒冷地の生物産業(生物産業学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 特別講義(一) | 2 | FL2 | | | | |
| | | | 選 | 特別講義(二) | 2 | | FL2 | | | |
| | | | 選 | 特別講義(三) | 2 | | FL2 | | | |
| | | | 選 | 特別講義(四) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(一) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(二) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | 全学共通 | 英語科目 | 必 | 英語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(三) | 2 | | F2 | | | |
| | | | 必 | 英語(四) | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | 英会話(一) | 2 | F1 | | | | |
| | | | 選 | 英会話(二) | 2 | L1 | | | | |
| | | | 選 | ビジネス英語 | 2 | | | | L2 | |
| | | | 選 | 科学英語 | 2 | | | | F2 | |
| | 学部共通 | 初修外国語科目 | 選 | 中国語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 中国語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 全学共通 | スポーツ関係科目 | 選 | スポーツ・レクリエーション(一) | 1 | F2 | | | | |
| | | | 選 | スポーツ・レクリエーション(二) | 1 | L2 | | | | |
| | | 就職準備科目 | 選 | キャリアデザイン | 1 | | F1 | | | |
| | | | 選 | インターンシップ | 1 | | | FL1 | | |
| | | | 選 | ビジネスマナー | 1 | | L1 | | | |
| | | 演習科目 | 必 | 共通演習 | 1 | L1 | | | | |
| | 学部共通 | 教育リメディアル科目 | 選 | 基礎生物 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 基礎化学 | 2 | F2 | | | | ☆ |
| | | | 選 | 基礎数学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 文章表現 | 2 | F2 | | | | |

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 専門共通科目 | 必 | 生物産業学概論 | 2 | F２ | | | | |
| | | | 必 | 生物産業体験実習 | 1 | FL１ | | | | |
| | | | 選 | バイオテクノロジー概論 | 2 | | F２ | | | 理 |
| | | | 選 | 生物資源概論 | 2 | | F２ | | | 理 |
| | | | 選 | アクアバイオ学概論 | 2 | L２ | | | | |
| | | | 選 | 食品科学概論 | 2 | F２ | | | | |
| | | | 選 | 現代社会論 | 2 | F２ | | | | |
| | | | 選 | 流通経済論 | 2 | | | L２ | | |
| | | | 選 | スポーツの科学 | 2 | | F２ | | | |
| | | 創生型科目 | 選 | オホーツク学 | 2 | | F２ | | | |
| | | 学際領域科目 | 選 | 現代環境論 | 2 | L２ | | | | |
| | | | 選 | 産業気象学 | 2 | | | F２ | | |
| | | | 選 | 食品開発論 | 2 | | F２ | | | |
| | | | 選 | 農水産業経営経済論(一) | 2 | | | F２ | | |
| | | | 選 | 農水産業経営経済論(二) | 2 | | | L２ | | |

フードサイエンスコース

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学科専門 | 専門基礎科目 | 必 | 有機化学(一) | 2 | L２ | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 分析化学(一) | 2 | F２ | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 生物化学 | 2 | | F２ | | | 理☆ |
| | | | 必 | 微生物学 | 2 | | F２ | | | 理 |
| | | | 必 | 食品栄養学 | 2 | | F２ | | | |
| | | | 必 | 食品化学 | 2 | | F２ | | | 理☆ |
| | | | 必 | 食品衛生学 | 2 | | L２ | | | |
| | | | 必 | 食品製造学 | 2 | | L２ | | | |
| | | | 必 | 食品機能学 | 2 | | L２ | | | 理 |
| | | | 選 | 有機化学(二) | 2 | | F２ | | | 理◎☆ |
| | | | 選 | 分析化学(二) | 2 | L２ | | | | 理◎☆ |
| | | | 選 | 無機化学 | 2 | L２ | | | | 理☆ |
| | | | 選 | 物理化学 | 2 | L２ | | | | 理☆ |
| | | | 選 | バイオテクノロジー各論 | 2 | | | F２ | | 理 |
| | | | 選 | 香料化学 | 2 | | L２ | | | ☆ |
| | | | 選 | 食品高分子化学 | 2 | | L２ | | | 理◎☆ |
| | | | 選 | 応用微生物学 | 2 | | L２ | | | 理 |
| | | | 選 | 食品物性学 | 2 | | L２ | | | 理 |
| | | 専門コア科目 | 必 | 農産資源利用学 | 2 | | | F２ | | |
| | | | 必 | 乳･畜産資源利用学 | 2 | | | F２ | | |
| | | | 必 | 食品保蔵学 | 2 | | | F２ | | |
| | | | 選 | 水産資源利用学 | 2 | | | L２ | | |
| | | | 選 | 地域資源活用論 | 2 | | | L２ | | |
| | | | 選 | 官能評価論 | 2 | | | L２ | | |
| | | | 選 | 食品品質管理学 | 2 | | | F２ | | |
| | | | 選 | 醗酵食品学 | 2 | | | L２ | | 理 |
| | | 総合化科目 | 必 | 食品産業学実習 | 1 | | L２ | | | |
| | | | 必 | 有機化学実験 | 2 | L４ | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 分析化学実験 | 2 | L４ | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 応用微生物学実験 | 2 | | F４ | | | |
| | | | 必 | 食品化学実験 | 2 | | F４ | | | 理☆ |
| | | | 必 | 農水産加工実習 | 2 | | | L４ | | |
| | | | 必 | 乳･畜産加工実習 | 2 | | | F４ | | |
| | | | 必 | 食品衛生学実験 | 2 | | L４ | | | |
| | | | 選 | 生物化学実験 | 2 | | F４ | | | ◎ |
| | | | 選 | 食品機能学実験 | 2 | | L４ | | | ◎ |
| | | | 選 | 食品物性学実験 | 2 | | | F４ | | |
| | | | 必 | 卒業論文 | 4 | | | | | |

コスメティックサイエンスコース

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学科専門 | 専門基礎科目 | 必 | 有機化学(一) | 2 | L 2 | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 分析化学(一) | 2 | F 2 | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 生物化学 | 2 | | F 2 | | | 理☆ |
| | | | 必 | 微生物学 | 2 | | F 2 | | | 理 |
| | | | 必 | 食品栄養学 | 2 | | F 2 | | | |
| | | | 必 | 食品化学 | 2 | | F 2 | | | 理☆ |
| | | | 必 | 食品衛生学 | 2 | | L 2 | | | |
| | | | 必 | 食品製造学 | 2 | | L 2 | | | |
| | | | 必 | 食品機能学 | 2 | | L 2 | | | 理 |
| | | | 選 | 有機化学(二) | 2 | | F 2 | | | 理◎☆ |
| | | | 選 | 分析化学(二) | 2 | L 2 | | | | 理◎☆ |
| | | | 選 | 無機化学 | 2 | L 2 | | | | 理☆ |
| | | | 選 | 物理化学 | 2 | L 2 | | | | 理☆ |
| | | | 選 | バイオテクノロジー各論 | 2 | | | F 2 | | 理 |
| | | | 選 | 香料化学 | 2 | | L 2 | | | ☆ |
| | | | 選 | 食品高分子化学 | 2 | | L 2 | | | 理◎☆ |
| | | | 選 | 応用微生物学 | 2 | | L 2 | | | 理 |
| | | | 選 | 食品物性学 | 2 | | L 2 | | | 理 |
| | | 専門コア科目 | 必 | 香粧品分析学 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 必 | 生体機能学 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 必 | 香粧資源学 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 選 | 機能生物化学 | 2 | | | L 2 | | ☆ |
| | | | 選 | 薬理毒性学 | 2 | | | L 2 | | |
| | | | 選 | 機能性食品素材論 | 2 | | | L 2 | | |
| | | 総合化科目 | 必 | 食品産業学実習 | 1 | | L 2 | | | |
| | | | 必 | 有機化学実験 | 2 | L 4 | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 分析化学実験 | 2 | L 4 | | | | 理☆ |
| | | | 必 | 応用微生物学実験 | 2 | | F 4 | | | |
| | | | 必 | 生物化学実験 | 2 | | F 4 | | | 理☆ |
| | | | 必 | 食品機能学実験 | 2 | | L 4 | | | 理 |
| | | | 必 | 香粧品資源学実験 | 2 | | | F 4 | | |
| | | | 必 | 香粧品製造学実習 | 2 | | | L 4 | | |
| | | | 選 | 食品化学実験 | 2 | | F 4 | | | ◎ |
| | | | 選 | 食品衛生学実験 | 2 | | L 4 | | | ◎ |
| | | | 必 | 卒業論文 | 4 | | | | | |

| 卒業要件単位数 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修 | 選択必修 | 分野別必修 | 選択 | 計 |
| 61 | 12 | 0 | 51 | 124 |

＊人間関係分野の科目は４科目中から２科目を選び必修とする
＊社会関係分野の科目は４科目中から２科目を選び必修とする
＊自然関係分野の科目は６科目中から２科目を選び必修とする
＊専門コア科目の必修科目を他分野から履修する場合は、選択科目とする。

注）• 区別欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。
• 週時間数欄のＦは前学期配当科目、Ｌは後学期配当科目、ＦＬは通年配当科目を表す。
• 備考欄の「理」は中学校及び高等学校教諭（理科）の一種免許状取得に関する選択科目を表す。
なお「(理)」は同免許状取得に関する必修科目である。
• 備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。
• 中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一ヵ国語に限り選択することができる。
• 授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

## ⑷　地域産業経営学科授業科目配当表

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 総合教育科目 | 共通全学 | 導入科目 | 必 | フレッシュマンセミナー | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 情報基礎(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 学部共通 | 人間関係科目＊ | 選必 | コミュニケーション学・心理学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 宗教と人間 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 倫理学 | 2 | | F2 | | | ㊫㊪ |
| | | | 選必 | 文学・芸術 | 2 | | L2 | | | |
| | | 社会関係科目＊ | 選必 | 日本国憲法 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 地理学 | 2 | L2 | | | | ㊫ |
| | | | 選必 | 現代社会の諸問題・国際関係論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選必 | 生物産業史 | 2 | | L2 | | | 社公 |
| | | 自然関係科目＊ | 選必 | 化学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 数学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 生物学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選必 | 地学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 統計学 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選必 | 物理学 | 2 | | L2 | | | |
| | 全学共通 | 課題別科目 | 選 | 食料生産と自然環境(農学部) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | | | 選 | バイオテクノロジーと生活(応用生物科学部) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 環境と人間(地域環境科学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 世界の中の農(国際食料情報学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 寒冷地の生物産業(生物産業学部) | 2 | FL2 | | | | メディア |
| | | | 選 | 特別講義(一) | 2 | FL2 | | | | |
| | | | 選 | 特別講義(二) | 2 | | FL2 | | | |
| | | | 選 | 特別講義(三) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | 特別講義(四) | 2 | | | FL2 | | |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(一) | 2 | F2 | | | | メディア |
| | | | 選 | インターナショナル・スタディーズ(二) | 2 | L2 | | | | メディア |
| | 全学共通 | 英語科目 | 必 | 英語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 必 | 英語(三) | 2 | | F2 | | | |
| | | | 必 | 英語(四) | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 英語リーディング(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(一) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | TOEIC英語(二) | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | 英会話(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 英会話(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ビジネス英語 | 2 | | | | L2 | |
| | | | 選 | 科学英語 | 2 | | | | F2 | |
| | 学部共通 | 初修外国語科目 | 選 | 中国語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 中国語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | ロシア語(二) | 2 | L2 | | | | |
| | 全学共通 | スポーツ関係科目 | 選 | スポーツ・レクリエーション(一) | 1 | F2 | | | | |
| | | | 選 | スポーツ・レクリエーション(二) | 1 | L2 | | | | |
| | | 就職準備科目 | 選 | キャリアデザイン | 1 | | F1 | | | |
| | | | 選 | インターンシップ | 1 | | | FL1 | | |
| | | | 選 | ビジネスマナー | 1 | | L1 | | | |
| | | 演習科目 | 必 | 共通演習 | 1 | L1 | | | | |
| | 学部共通 | 教育リメディアル科目 | 選 | 基礎生物 | | — | — | — | — | — |
| | | | 選 | 基礎化学 | | — | — | — | — | — |
| | | | 選 | 基礎数学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 文章表現 | 2 | F2 | | | | |

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学部共通 | 専門教育科目 | 必 | 生物産業学概論 | 2 | F2 | | | | 社公 |
| | | | 必 | 生物産業体験実習 | 1 | FL1 | | | | |
| | | | 選 | バイオテクノロジー概論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 生物資源概論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | アクアバイオ学概論 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | 食品科学概論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 現代社会論 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 選 | 流通経済論 | 2 | | | L2 | | |
| | | | 選 | スポーツの科学 | 2 | | F2 | | | |
| | | 創生型科目 | 選 | オホーツク学 | 2 | | F2 | | | |
| | | 学際領域科目 | 選 | 現代環境論 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | 産業気象学 | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 食品開発論 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 農水産業経営経済論(一) | 2 | | | F2 | | 社公 |
| | | | 選 | 農水産業経営経済論(二) | 2 | | | L2 | | 社公 |
| 専門教育科目 | 学科専門 | 専門基礎科目 | 必 | 経営学総論(一) | 2 | F2 | | | | 社公 |
| | | | 必 | 経営学総論(二) | 2 | L2 | | | | 社公 |
| | | | 必 | ミクロ経済学 | 2 | F2 | | | | 社公 |
| | | | 必 | マクロ経済学 | 2 | L2 | | | | 社公 |
| | | | 必 | 簿記(一) | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 簿記(二) | 2 | L2 | | | | |
| | | | 必 | 経営数学 | 2 | F2 | | | | |
| | | | 必 | 会計学 | 2 | | F2 | | | 社公 |
| | | | 必 | 経営管理論 | 2 | | L2 | | | 社 |
| | | | 必 | 社会調査論 | 2 | L2 | | | | 社公 |
| | | | 必 | マーケティング論 | 2 | | F2 | | | 社公 |
| | | | 必 | 地域産業経営論 | 2 | | L2 | | | |
| | | | 必 | 地域産業経営学実習(一) | 1 | F1 | | | | |
| | | | 必 | 地域産業経営学実習(二) | 1 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 現代の管理会計 | 2 | | | F2 | | 社 |
| | | | 選 | 財務管理論 | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 環境経済学 | 2 | | F2 | | | 社公 |
| | | | 選 | 環境ビジネス論 | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 解析学入門 | 2 | L2 | | | | |
| | | | 選 | 経営統計分析 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 経済と法 | 2 | | L2 | | | 社公 |
| | | | 選 | 社会と法 | 2 | | F2 | | | 社公 |
| | | | 選 | ソフトウェア応用 | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 中国語(三) | 2 | | F2 | | | |
| | | | 選 | 中国語(四) | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 産業経営学実務演習(一) | 2 | | L2 | | | |
| | | | 選 | 産業経営学実務演習(二) | 2 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 社会調査実習(一) | 1 | | | F2 | | |
| | | | 選 | 社会調査実習(二) | 1 | | | L2 | | |
| | | | 選 | オホーツク産業実習 | 1 | | F2 | | | |

| 分野 | | | 区分 | 授業科目 | 単位 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門教育科目 | 学科共通 | 専門コア科目 | 選必 | 経営組織論 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 選必 | 経営分析論 | 2 | | | L 2 | | 社公 |
| | | | 選必 | 戦略的マーケティング論 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 選必 | ビジネスモデル戦略論 | 2 | | | L 2 | | |
| | | | 選必 | ビジネス情報システム論 | 2 | | F 2 | | | |
| | | | 選必 | ビジネス情報ネットワーク論 | 2 | | L 2 | | | |
| | | | 選必 | 地域ビジネス論 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 選必 | 地域ビジネスゲーム | 2 | | | L 2 | | |
| | | | 選必 | 地域環境政策論 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 選必 | 地域活性化システム論 | 2 | | F 2 | | | 社公 |
| | | | 選必 | 地域産業創成学 | 2 | | | F 2 | | |
| | | | 選必 | 北海道産業論 | 2 | | L 2 | | | 社公 |
| | | | 選必 | 生物産業技術論 | 2 | | | L 2 | | |
| | | | 選必 | アグリフードシステム論 | 2 | | | F 2 | | 社公 |
| | | 総合化科目 | 必 | 基礎ゼミナール | 2 | FL 2 | | | | |
| | | | 必 | 地域産業経営学ゼミナール(A) | 2 | | FL 2 | | | |
| | | | 必 | 地域産業経営学ゼミナール(B) | 2 | | FL 2 | | | |
| | | | 必 | 地域産業経営学ゼミナール(C) | 2 | | | FL 2 | | |
| | | | 必 | 地域産業経営学ゼミナール(D) | 2 | | | FL 2 | | |
| | | | 必 | 卒業論文 | 4 | | | | | |

| 卒業要件単位数 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修 | 選必 | 専門コア科目 | 選択 | 計 |
| 58 | 12 | 16 | 38 | 124 |

＊人間関係分野の科目は４科目中から２科目を選び必修とする。
＊社会関係分野の科目は４科目中から２科目を選び必修とする。
＊自然関係分野の科目は６科目中から２科目を選び必修とする。
＊専門コア科目の選択必修科目について８科目16単位の履修が必要である。
＊専門コア科目の選択必修科目を８科目を越えて履修した場合の修得単位は選択科目に繰り込まれる。

注）• 区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。
• 週時間数欄のＦは前学期配当科目、Ｌは後学期配当科目、ＦＬは通年配当科目を表す。
• 備考欄の「㊎」は中学校教諭（社会）の一種免許状取得に関する必修科目、「社」は選択科目、「㊐」は高等学校教諭（公民）の一種免許状取得に関する必修科目、「公」は選択科目を表す。
• 備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。
• 中国語（一）・（二）およびロシア語（一）・（二）はいずれか一ヵ国語に限り選択することができる。
• 中国語（三）・（四）を履修するには中国語（一）・（二）の単位を修得しなければならない。
• ロシア語（三）・（四）を履修するにはロシア語（一）・（二）の単位を修得しなければならない。
• 授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

## ⑸ 全学共通科目

### 1）日本語

○　日本語は、外国人留学生および帰国子女に限り履修することができます。

○　日本語の修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができます。

| 科目区分 | 授業科目 | 単位数 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 一年次 | 二年次 | 三年次 | 四年次 | |
| 選択科目 | 日本語（一） | 2 | F2 | | | | ①履修することができる者は、外国人留学生および帰国子女に限る。 |
| | 日本語（二） | 2 | F2 | | | | ⑪修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができる。 |

### 2）特別活動プログラムについて

○　特別活動プログラムは、平成17年度以降入学生に限り履修することができます。

| 科目区分 | 授業科目 | 単位数 | 週時間数 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 一年次 | 二年次 | 三年次 | 四年次 | |
| 選択科目 | 特別活動(クラブ活動)(一)～(四) | 各1 | | | | | ①履修することができる者は、平成17年度以降入学生に限る。<br>⑪修得単位については、92～93ページ③単位認定の特色とカリキュラム上の位置づけを参照すること。 |
| | 特別活動(国際学生交流活動)(一)～(四) | 各1 | | | | | |
| | 特別活動(環境マネジメント活動)(一)～(四) | 各1 | | | | | |
| | 特別活動(ボランティア活動)(一)～(四) | 各1 | | | | | |

①当プログラム設置の目的

学生諸君が取り組んでいるクラブ活動や社会活動など様々な活動を、本学の「個性ある教育」および人格形成や社会性の涵養など人間教育的観点から意義あるものと位置づけ、積極的に評価し、その単位化を計ることを目的とします。また、それらの活動を単位化することにより、学生諸君の取り組み姿勢を明確にするとともにその内容や意欲のより一層の充実を図ることを合わせて目的とします。

②対象とする諸活動

| 活動区分 | 対象とする具体的活動 |
|---|---|
| （1）クラブ活動（一）～（四） | 農友会各部、同好会、応援団、収穫祭 |
| （2）国際学生交流活動（一）～（四） | 学生サミット、留学生支援、大学間交流支援など |
| （3）環境マネジメント活動（一）～（四） | 学内外環境管理活動 |
| （4）ボランティア活動（一）～（四） | 地域貢献、国際貢献、環境保全、NPO活動、<br>学習支援活動（小・中学校・クラブ活動支援）、<br>福祉活動（高齢者・障害者介護支援）など |

③単位認定の特色とカリキュラム上の位置づけ

本活動に関する単位認定の特徴は、通常の科目のように教員の教育目標やシラバスに基づき行う講義や実験・実習、その成績評価のシステムではなく、学生自らが主体的に取り組んだ活動について、学生本人が、活動の責任者の承認を受け単位認定を申請するシステムとします（履修申請は不要、活動の指導者、責任者が一括承認も可とする）。最終的には、学生の申請書類（活動記録等）をもとに単位認定委員会が審査し単位認定を行います。

なお、単位数は1年（あるいは短期集中1活動）を1単位とし、申請は単年度申請とします。同一年度における同一活動区分での複数申請は行えません。なお、修得総単位数のうち、一定単位（大学4単位）は卒業要件として認められます。また、取得した単位は、卒業要件

として他学部聴講30単位に含むものとします。また、当プログラムによる修得単位は、年間および学期ごとの履修制限単位数には含みません。

④申請書類提出の手順について

申請書類提出の手順については､学内掲示板および学生ポータルサイトでお知らせします。

## 各学部、各学科及び課程の目的

各学部、各学科及び課程においては、建学の理念に基づき、人材育成と教育研究の面からそれぞれの目的を以下のとおり定めている。

### 生物産業学部

本学部は、人類生存の基である生物産業にかかわる生産、加工、流通、ビジネスを取り巻く自然科学的・社会経済的現象を教育・研究の対象とした生物産業学を基盤として､文理融合の教育体系のもとで､生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、その解決方向を示すことができ、地域社会・国際社会に貢献しうる人材を養成します。

したがって、本学部は食料自給や環境保全など人類共通の課題に興味を持ち、問題解決に向けて意欲的にチャレンジし、生物産業の発展に寄与すると共に、広く社会に貢献できる人材を求めています。

### 生物生産学科

本学科は、多様な陸圏領域の教育・研究が実践できるように配置した植物系、動物系、資源・環境系の分野において、新しい生物資源の開発や多様な環境に配慮した生物生産力の拡大、生物資源機能の新しい応用などにかかわる理論と技術を教育研究し、国際的な視点で地域産業の発展に貢献できる人材を養成します。

したがって、本学科は食料資源や自然資源の宝庫であるオホーツク圏において、食料資源の生産、管理、生態系の保全、生物資源の機能などに興味を持ち、21世紀人類の課題である人と自然との調和に基づく食料自給率の向上や自然資源の保全に貢献できる意欲的な人を求めます。

### アクアバイオ学科

本学科は、豊かな生態系と高い生産性に恵まれたオホーツク海を主たる場として、資源の生物学的知見と､それを育む水圏の環境及び生態系にかかわる知見とを統合的に理解させることを教育研究の目標とし、水圏環境の保全、水産資源の増養殖、解析、管理、未利用資源の開発、漁獲物の利用加工や流通等資する人材を養成します。

したがって、水圏の生物や生態系そして環境はもちろん、これらの保全などにも興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的にチャレンジする意欲のある人を求めます。

### 食品香粧学科

本学科は、雄大な自然の下で豊かな感性を育みながら、食・健康産業における素材の性質や機能、製造原理などの基礎から応用までを、講義・実験・実習を通じ、体験的に理解・修得し、新たな製品開発ができるスキルを身につけ、豊かな感性と幅広いスキルで食と健康の問題に対応できる人間力あふれた、21世紀の食品、香粧品、医薬品産業を担う人材を養成します。

したがって、本学科は、自然や食、香り、健康などに興味を持ち、様々な視点から、食や香粧を通じた体の内外からの健康のサポートや、物心両面における生活の豊かさ向上に向けてチャレンジする、意欲的な人を求めます。

### 地域産業経営学科

本学科は、農林水産業、食品加工業、自然を活かした観光業、環境ビジネスなど、地域産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材をオホーツクの地・産業をフィールドとして養成する。

### 教職・学術情報課程

本課程は、知識・品位・技術を兼ね備えた熱意あふれる教員並びに博物館・図書館等における各種情報の調査・収集・整理・保管・検索・提供等の実務に取り組む実践的かつ専門的知識を身につけた学芸員及び司書を養成する。

# Ⅲ　オホーツク学術情報センター利用案内

## は じ め に

学問をしていく上で大切なことのひとつは、その分野の研究成果を知り適切な情報を数多く入手することです。オホーツク学術情報センターはこのための学習や調査研究などの様々な情報提供に応える情報基盤施設です。

専門図書・学術雑誌のほか、視聴覚（ビデオ・ＤＶＤ）資料、ＣＤ－ＲＯＭなど様々なメディアに加え､各種電子ジャーナルやインターネットなども随時利用できる環境を整えていますので､是非活用して下さい。

また､センターでは､学部８号館３階にあるコンピュータ演習室・コンピュータ実習室の管理・運用も担っています。これら教室設備は、授業などでの占有時間を除き、自学・自習を目的とする個人利用（公開利用）に供していますので合わせてご利用下さい。

＊本書のほか、センター利用に関する詳細は、以下ＵＲＬのセンターホームページを参照して下さい。

**http://www.bioindustry.nodai.ac.jp/~library/index.html**

## ○利用者カード

資料の貸出・返却・予約などは、全てコンピュータで処理されるため、利用の際には必ず「学生証」が必要となります。また、センター内のコンピュータ機材や各種ネットワークサービスを利用する際には､「情報関連設備公開利用許可証」記載の利用者とＩＤパスワードが必要となっています。

※学生証の申請や発行、交付の窓口は、学生サービス課となります。

※情報関連公開利用許可証は、所定の講習会を受講し、情報関連設備公開利用申請書により申請された方を対象に、センターより交付します。なお、申請や発行、交付の窓口は学生サービス課となります。

## ○利用時間

午前８：30～午後６：00

※規程上は午後５時までですが、原則として授業のある平日は１時間の延長サービスを行っています。

※開館時間を短縮・延長する場合は、事前にホームページなどでお知らせします。

## ○休 館 日

１．土曜日※・日曜日
２．国民の祝日に関する法律に規定する日
３．学校法人の創立記念、大学の記念日
４．長期休暇中の一定期間
５．その他臨時に必要のあるとき

※授業のある土曜日は開館します。
※臨時の開館や休館については事前にホームページなどでお知らせします。

## ○入退館時の注意

１．入退館時の手続きは必要ありません。手荷物の持ち込みも自由ですが、各自の責任の元に管理して下さい。
２．飲食物は持ち込まないで下さい。（館内飲食禁止）
３．冬季・雨天の際、靴や衣服についた雪・泥などは落としてから入館して下さい。
４．傘は１階風除室の傘立てに収納して下さい。

## ○利用の心得

１．他の利用者の迷惑となる行為は慎み、学習・研究の良好な環境維持にご協力下さい。
２．図書・資料、機械器具その他の設備を汚損、破損しないで下さい。
３．携帯電話、音の出る携帯通信機器は、音が出ないようにしておいて下さい。また、館内での通話はしないで下さい。
４．施設内は、全て禁煙です。トイレなどでの喫煙は絶対にしないで下さい。
５．施設内では静粛を保つようご協力下さい。

## ○閲覧について

センターでは、図書・資料、学術雑誌、視聴覚資料、新聞、一般誌（週刊誌）などを利用者が直接手にして、自由に閲覧することができる、「完全開架制」を採用しています。

資料の種類毎に配架場所が異なりますので、書架案内などを適宜参照して下さい。なお、センターが所蔵する資料は、コンピュータによってデータ管理されており、ＯＰＡＣ（オーパック／Online Public Access Catalog）にて速やかに検索できます。

閲覧席は、１階と２階にあります。それぞれに閲覧テーブルや閲覧キャレルが設置されているほか、一般誌や新聞コーナー、雑誌コーナー付近には、ブラウジング用ソファなども設置されています。

また、１階には、ＣＤ－ＲＯＭやＤＶＤに代表される電子化資料やインターネットが利用できる環境を整えた、マルチメディア情報コーナーなども設けています。

なお、書籍など従来型紙媒体資料に加え、インターネットや電子化メディアなどの電子媒体資料をフレキシブルに活用できるスペースとして、２階閲覧室及び２階教員閲覧室、情報学習室、２階書庫内に、コンピュータと閲覧キャレルを組み合わせた「情報化対応キャレル」を設置しています。

## ○貸出・返却・予約について

１．禁帯出指定以外の図書・資料については、１階カウンターにて所定の手続きを受け、館外貸出サービスが受けられます。

２．貸出手続きの際は必ず「学生証」を提示して下さい。

３．貸出冊数と期限は次のとおりです。貸出期限は厳守して下さい。

学生　１人10冊まで２週間以内　　大学院生　１人10冊まで４週間以内

４．返却は、１階カウンターへ持参するか、２階回廊の返却ポストへ投函して下さい。

５．返却には処理手続きが必須ですので、直接自分で書架に戻さないようにして下さい。

６．次の予約がない場合に限り再貸出も可能です。

７．利用したい図書・資料が貸出中の場合は、ＯＰＡＣ画面から直接予約ができます。

※貸出手続きされていない資料を持ち出すと出口のドアがロックされアラームが鳴ります。

※貸出資料の又貸しは絶対にしないで下さい（貸出登録者の賠償責任となります)。

※返却期限の超過が一ヶ月以上となった場合、貸出を停止します。

※万一、破損・汚損、紛失した場合には速やかにカウンターへ申し出て下さい。

## ○複　　写

１階にコイン式電子複写機１台を設置しています。センター所蔵資料について、著作権の範囲内で複写することができます。なお、複写はセルフサービスとなっています。

※利用に際し著作権に係る一切の責任は利用者自身が負うものとなります。

※センターでの両替は行っていませんのであらかじめご了承下さい。

※複写機は学内売店の所管品です。クレーム等は売店までお願いします。

## ○レファレンサービス

１．センターの利用に関する質問・相談に応じます。

２．解答を導き出すための資料について、各種情報リソースの提供や援助を行います。

３．センターに所蔵していない資料について、文献の複写・貸借依頼などを行います。

※ＯＰＡＣ画面サービスメニューからオンラインで申し込んで下さい。

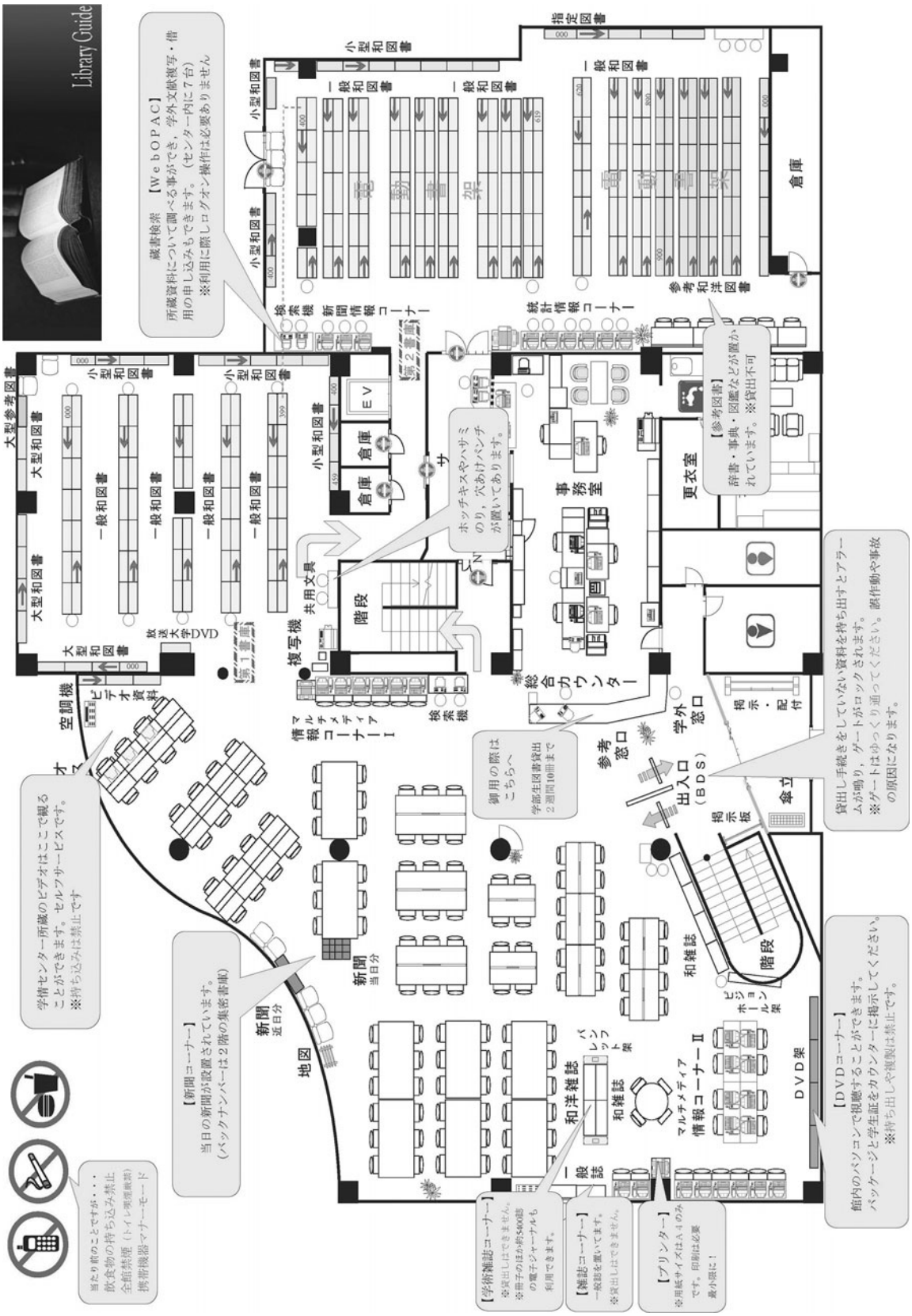
※費用は実費負担となります。

４．他大学図書館などを利用する際に必要な「紹介状」を発行します。カウンター備え付けの申込用紙にて申し込んで下さい。

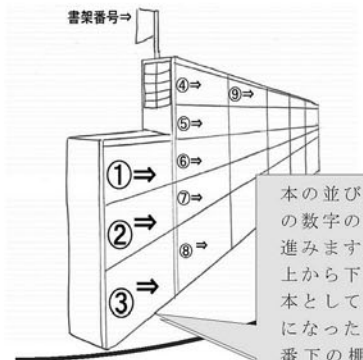
# オホーツク学術情報センター棟（学部４号館）案内図

## 【2013年１月現在】

## 学術情報センター１階



| 種 別 | 内容 | 配架場所 |
|---|---|---|
| 参考和図書 | 辞書・事典・ハンドブック類 | 1階 第二書庫 |
| 参考洋図書 | 同 上 | 1階 第二書庫 |
| 指定図書 | 教員推薦サブテキスト類 | 1階 第二書庫 |
| 統計書 | 白書・統計資料 | 2階 書庫(奥) |
| 一般和図書 | 上記以外の図書資料類 | 1・2階 書架 |
| 注意<br>■サイズによる別置：新書・文庫→小型図書架，高さ27cm以上→大型図書架<br>■比較的古いものや重複本は順次1階から2階書庫へ移動 | | |
| 一般洋図書 | 同 上 | 2階 集密書庫 |
| 学術雑誌(カレント) | 最新到着分から雑誌架に収納可能な分 | 1階 雑誌架 |
| 学術雑誌<br>(バックナンバー) | 雑誌架に収納不可となった分(製本を含む) | 2階 集密書庫 |
| 視聴覚資料 | ビデオ(VHS) | 1階 ビデオ架(第一書庫)) |
| | DVD(Digital Video Disc ) | 1階 DVD架 |
| 新聞(カレント) | 最新到着分 | 1階 新聞架 |
| 新聞(バックナンバー) | 上記以後適宜保存分 | 2階 新聞コンテナ(集密書庫) |
| 一般雑誌 | 一般週刊誌・月刊誌 | 1階 一般誌架 |




【集密書架】
学術雑誌（バックナンバーなど）や洋図書，中国書，ロシア書，白書・統計類が置かれています。
※雑誌は分類番号でなく誌名の「あいうえお（和）」「ABC（洋）」順に並んでいます

【新聞】
過去３ヶ月のバックナンバーを保管しています。

【２階移動書架】
古い資料や利用頻度の比較的少ない一般和図書が置かれています。

本の並びは，左から右へ分類番号の数字の小さい方から大きい方へ進みます。書棚は，左から右へ，上から下へ１棚，１連，１面を基本として，ひとつの棚がいっぱいになったらその下の棚に並べ，一番下の棚までいっぱいになったら，その右上の棚に並びます。

【情報学習室】
簡易講習会などに使いますが，普段は自由に使用できます。

【教員閲覧室】
普段は学生の皆さんも使用できます。

【返却ポスト】
こちらからも返却することができます。
※ただし返却処理は翌日になります



# 学術情報センター２階

# Ⅳ　国際教育プログラム・外国人留学生支援

国際協力センターは世界20カ国・地域に点在する海外協定校や関連機関との間で語学や農業に関する研修や異文化理解、異国民間交流を通じて国際社会に貢献できうる専門知識や技術のみならず幅広い知識をもつ人材を育成するための各種の国際教育プログラムを展開させ多くの学生へ参加を推進しています。

一方、外国人留学生を受入れ、有意義な学生生活を送れるよう様々な支援を行っています。なお、オホーツクキャンパスにおいては学生サービス課が担当しています。

## 国際教育プログラム

現在、本学の海外協定校は世界20カ国・地域に広がり年間100名以上の本学学生が各自の興味や目的に合わせて各海外協定校や関連機関に派遣されています。

| 大　　学　　名 | 協定締結年月日 |
|---|---|
| アメリカ合衆国　ミシガン州立大学<br>Michigan States University | 1966年（昭和41年）１月12日 |
| タイ王国　カセサート大学<br>Kasetsart University | 1988年（昭和63年）６月９日 |
| カナダ国　ブリティッシュコロンビア大学<br>The University of British Columbia | 1988年（昭和63年）７月20日 |
| 中華人民共和国　中国農業大学<br>China Agricultural University | 1988年（昭和63年）８月22日 |
| 台湾　国立中興大学<br>National Chung Hsing University | 1992年（平成４年）６月11日 |
| インドネシア共和国　ボゴール農科大学<br>Bogor Agricultural University | 1996年（平成８年）８月２日 |
| ペルー共和国　ラモリーナ国立農業大学<br>La Molina National Agrarian University | 1996年（平成８年）８月２日 |
| モンゴル国　モンゴル国立農業大学<br>Mongolian State University of Agriculture | 1996年（平成８年）８月12日 |
| フィリピン共和国　フィリピン大学ロスバニオス校<br>University of the Philippines Los Banos | 1996年（平成８年）９月11日 |
| 大韓民国　国立慶北大学<br>Kyungpook National University | 1998年（平成10年）４月28日 |
| イスラエル国　ヘブライ大学<br>The Hebrew University of Jerusalem | 1998年（平成10年）９月28日 |
| ベトナム社会主義共和国　ハノイ農業大学<br>Hanoi University of Agriculture | 1998年（平成10年）11月19日 |
| ブラジル連邦共和国　サンパウロ大学<br>University of Sao Paulo | 2001年（平成13年）２月22日 |
| メキシコ合衆国　チャピンゴ自治大学<br>Chapingo Autonomas University | 2001年（平成13年）７月16日 |
| ウクライナ共和国　ウクライナ国立生命環境科学大学<br>National University of Life and Environmental Sciences of Ukraine | 2003年（平成15年）９月19日 |
| マレーシア国　マレーシアプトラ大学<br>Putra University, Malaysia | 2004年（平成16年）３月16日 |
| フランス共和国　フェイシア<br>Fédération des Ecoles Supérieure d'Ingénieurs en Agriculture | 2004年（平成16年）６月16日 |
| オランダ王国　ワーヘニンゲン大学<br>Wageningen University | 2004年（平成16年）６月23日 |
| フランス共和国　ボーベ・ラサール・ポリテクニーク学院<br>Institut Polytechnique LaSalle Beauvais | 2007年（平成19年）８月27日 |
| タンザニア連合共和国　ソコイネ農業大学<br>Sokoine University of Agriculture | 2009年（平成21年）４月６日 |
| カンボジア王国　王立農業大学<br>Royal University of Agriculture | 2011年（平成23年）４月２日 |

## 1　インターナショナルスタディーズ（一）（二）

本学では国際感覚を養い世界の人々の一員として活躍できる人材を養成する目的でインターナショナルスタディーズ（一）（二）を全学共通科目として設置しています。インターナショナルスタディーズ（一）は講義を行い、さらに演習として本学で実施している多種多様な国際協力活動の事例を通じて、海外協定校のある国々を中心に、それらの国や地域の問題点と可能性を理解し、自国と世界の国々との協調のあり方を探ります。また、インターナショナルスタディーズ（二）では、本学の海外姉妹校への短期派遣プログラムに参加することにより世界人として不可欠な多様な人々・社会・政治経済・文化に関する理解を深化させます。

## 2　短期派遣プログラム

短期派遣プログラムは、原則として夏期休暇の２週間に実施します。海外姉妹協定校の施設に寄宿し海外協定校の学生との交流を行い、農村や農業関連企業などを視察し派遣国の食農環境を学びます。2012年度はカセサート大学、中国農業大学、国立中興大学、ミシガン州立大学、アマゾニア農業大学、ボーベ・ラサール・ポリテクニーク学院、ソコイネ農業大学、ボゴール農科大学で実施を予定しています。この他にブリティッシュコロンビア大学ではホームステイをしながら語学を学ぶプログラムを実施しています。こちらは夏期休暇の３週間と春期休暇の１ヵ月です。短期派遣プログラムは今後、他の海外協定校においても実施を検討しています。この短期派遣プログラムに参加し、所定の手続きを行った場合はインターナショナル・スタディーズ(二)の単位を修得することができます。各プログラムの詳細については、国際協力センターもしくは学生サービス課にお問い合わせ下さい。

## 3　長期留学（外国人留学生は応募できません）

このプログラムは、本学成績優秀者に対し奨学金として往復の航空運賃相当額と留学期間中の本学授業料を免除し、海外協定校に１年間または６か月間の留学の機会を与えるものです。派遣学生数は各海外協定校１～２名です。

募集は毎年10月中旬（派遣は翌年８月）に、学部２・３年次生および大学院生（派遣時は学部３・４年次生および大学院生）を対象に行います。選考は学内成績、TOEFLのスコア、作文、心理テスト、語学力、面接を総合的に評価し留学生を決定します。本学からの派遣学生は派遣大学において特別留学生として籍を置き、正規の授業を受講し単位を修得することができます。海外協定大学で修得した単位は帰国後所定の手続きにより学部生は他学部・他学科聴講、大学間履修等により修得できる単位数30単位を超えない範囲で、また大学院生は10単位を上限に卒業要件の単位として認定されます。

- ●応募にはTOEFLのスコアが必要です。事前に必ず受験しておいて下さい。申込みから結果を得るまで１ヵ月以上要するので余裕をもって受験して下さい。
- ●派遣期間：８月上旬～翌年７月下旬
- ●応募資格：学部２・３年次生、大学院生（受入大学により、語学力、受入学年等が異なりますので、説明会等で確認して下さい。）
- ●応募人数：各海外協定校１～４名
- ●費用：派遣先により異なる（留学期間中の本学授業料は学生諸経費を除き免除）

## 4　アメリカ農業実習

このプログラムは、米国法人International Farmers Aid Association (IFAA) が現地における引受機関となり、本学学生を全米各地の農場に配属します。実習生は、より実践的にアメリカの農業を体験する事ができます。プログラムには配属農場での実習のほかに、約１ヶ月間の英語研修、通算40日間のセミナー、研修旅行等が含まれています。

実習期間は12ヵ月間（毎年３月出発、翌年３月帰国）で、学部３、４年次生および短期大学部２年次生（編入が決定した者は除く）を対象としています。派遣期間中は授業料が年間授業料の10％に減免免除され学籍上は休学の扱いとなります。

### 5　世界学生サミットと世界学生フォーラム

世界学生サミットは2001年11月に「新世紀の食と農と環境を考える世界学生サミット」をテーマとして本学学生（外国人留学生を含む）と海外協定校学生が世田谷キャンパスに参集して２日間にわたり、人類が直面する深刻な諸問題に関する意見・情報交換および彼ら自身の役割について討論する国際会議として発足しました。翌年2002年には世界をつなぐ学生間のネットワーク化を進める宣言の下、本学と海外協定校学生で構成された組織である世界学生フォーラム（ISF）を立ち上げ、日頃より各国の食・農・環境について情報交換・討議をしながら次回の世界学生サミットに向けての活発な活動を行っています。

第13回を迎える世界学生サミットは2013年10月初旬“students Talking Action in response to Rnergy challengs in the areas of Food, Agriculture and Enviroment”をサブ・テーマとして開催する予定です。

### 6　新国際教育プログラム

2008年４月にカリキュラム改正を行い、新国際教育プログラム（CIEP（シエップ））をスタートしました。このプログラムは講義・フィールドスタディ・ワークショップにより編成されており、２週間のプログラムを修了すると６単位修得することができます。世界学生サミットは、この「新国際教育プログラム（CIEP）」の一環として位置づけられ、世界学生サミットの座長と発表者には２単位が与えられます。

### 7　日本学生支援機構で募集する留学

文部科学省の外郭団体である（独）日本学生支援機構が行う外国政府奨学金留学生の募集があります。募集については農大の学生ポータルか国際協力センター、各学生サービス課の掲示で確認して下さい。

## 外国人留学生支援（オホーツクキャンパスにおいては学生サービス課が担当しています）

### Ⅰ　学費等の納入について

在留資格が「留学」である学生は学費の納入を年間４分割で請求しています。

第１回目から第４回目の各回の納入期限日までに必ず学費等を納入するようにして下さい。やむを得ず期限日までに払えない場合は国際協力センターまたは学生サービス課へ連絡して下さい。

学費の滞納がありますと、奨学金の申請や支給に不都合がでるだけでなく学籍が取り消されることもあります。

### Ⅱ　住民票及び在留カード（写）の提出について

出入国管理及び難民認定法第19条の17に基づき、外国人学生の在留資格を管理するため、必ず毎年４月上旬に住民票と在留カード両面のコピーを提出してもらいます。

### Ⅲ　奨　　学　　金

奨学金の募集の案内は随時、学生ポータルサイトでお知らせしています。

日本学生支援機構の学習奨励費及び東京農業大学外国人留学生奨学金の募集は毎年年度初めの４月にあります。

奨学金を応募するためには在留資格が“留学”であることが必須です。

奨学金を受けられるのは留学生数の１４％足らずと非常に難しい状況となっています。

## Ⅳ　国民健康保険

区（市）役所の国民健康保険課で加入手続きができます。国民健康保険の加入により治療費は３割負担で済むことになります。必ず加入して下さい。

医療機関を利用する際にはこの保険証を提示すれば医療費の７割が免除されます。

なお、健康診断や美容整形、歯科矯正、交通事故等については保険の対象外になりますので注意して下さい。

## Ⅴ　留学生住宅総合保障制度

留学生が賃貸住宅に入居するにあたり保証人を探す困難さと保証人の負担を軽減し留学生の賃貸住宅への円滑な入居を促進することを目的とした制度です。

この制度を利用したい留学生は国際協力センターへ相談下さい。

## Ⅵ　在留資格等に関すること

2012年７月９日より新しい在留管理制度の導入により従来の外国人登録制度は廃止されました。詳しくは入国管理局のホームページを確認下さい。

http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/

外国人登録証明書については在留期間の満了日まで在留カードに見なされますので在留カードが交付されるまでは引き続き所持して下さい。

在留カードは中長期在留者に対して上陸許可や在留資格変更許可、在留期間の更新許可などの在留に係る許可に伴って交付されるものです。

新たに来日して出入国港において在留カードが交付された方は住居地を定めてから14日以内に在留カードを持参の上、住居地の地区町村の窓口でその住居地を法務大臣に届出て下さい。また引っ越しをした場合も変更後の住居地に移転した日から14日以内に在留カードを持参のうえ移転地先の地区町村の窓口でその住居地を法務大臣に届け出て下さい。

所属機関の変更（在籍校　例えば日本語学校から東京農業大学へ変更）が生じた場合は14日以内に地方入国管理官署へ出頭または東京入国管理局への郵送により法務大臣に届け出て下さい。

### 在留期間の更新

在留期間を更新するためには在留期間の満了する３か月前から当日までに入国管理局へ出頭して期間更新の手続きをしなければならない。手続きに必要なものは在留期間更新許可申請書（大学の押印が必要）在学証明書、成績証明書、旅券、在留カード、経費支弁に関する書類、手数料等です。

### 再入国許可

有効な旅券及び在留カードを所持する外国人が出国する際、出国後１年以内に本邦での活動を継続するために再入国する場合は原則として再入国許可を受ける必要が無くなります。（この制度を「みなし再入国許可」といいます。）

出国する際には必ず在留カードを提示しなければなりません。みなし再入国許可により出国した方

はその有効期間を海外で延長することはできません。出国後１年以内に再入国しないと在留資格が失われることになりますので注意して下さい。

資格外活動

留学中の学費や生活費を補うために学業の妨げにならない範囲でアルバイトをするには入国管理局へ出頭し資格外活許可の申請をしなければなりません。

アルバイトは週28時間以内（夏期、冬期、春期休暇中は１日８時間以内）と制限されます。制限時間を超えてアルバイトをすると本国への送還などの処分を受けますのでルールに従ってアルバイトするよう注意して下さい。また風俗営業や風俗関連営業が行われる場所でのアルバイトは禁じられています。スナック、ナイトクラブ、客の接待をして飲食させるバー、飲食店などでは皿洗いや清掃の仕事をすることも禁止されていますので十分に気をつけて下さい。

資格外活動許可申請の際に必要なものはパスポート、在留カード、学制証、資格外活動許可申請書です。

以下は各キャンパスに在籍の外国人留学生が出頭するのに便利な入国管理局の一覧です。

| 管理局名 | 住所 | アクセス |
|---|---|---|
| 東京入国管理局 | 港区港南５－５－30<br>℡03-5796-7111 | JR品川駅から都バスで東京入国管理局前 |
| 東京入国管理局<br>川崎出張所 | 川崎市麻生区上麻生１－３－14川崎西合同庁舎<br>℡044-965-0012 | 小田急線　新百合ヶ丘駅<br>南口　徒歩５分 |
| 札幌入国管理局<br>釧路港出張所 | 釧路市南浜町５－９　釧路港湾合同庁舎内<br>℡　0154-22-2430 | 釧路駅から徒歩16分 |

# Ⅴ　生物資源開発研究所

本学は各学部に研究所をおいていますが、それぞれの学部がそれぞれの立場で研究に取り組んでいます。

生物資源開発研究所の国際公称は、NODAI Bioresources Instituteで略称NBI（資源研）と称します。資源研はオホーツクキャンパスを拠点とし生物資源の開発・生産・有効利用並びに産業経済の問題について、試験研究・調査計画・普及活動などを行い、当該学術分野の進展と地域社会の、経済の発展に寄与する事を目的としています。また、農林水産業の振興をはじめ寒地農学をテーマにした国内・国外との研究交流活動も行っております。

また、研究スタッフは生物産業学部各学科の教員が研究員を兼務し、調査・試験・研究にあたります。

# Ⅵ　大学農場案内

大学には伊勢原農場・富士農場・網走寒冷地農場・宮古亜熱帯農場の４農場が設置されていますが、伊勢原農場・富士農場は農学部に、網走寒冷地農場は生物産業学部に、宮古亜熱帯農場は国際食料情報学部にそれぞれ所属しています。

農場を利用して農業実習や演習・実験を実施している学科は、農学部全学科、地域環境科学部造園科学科および生産環境工学科、国際食料情報学部国際農業開発学科、生物産業学部全学科、短期大学部の生物生産技術学科および環境緑地学科であり、教職課程の「栽培」実習などでの利用もあります。実習は、各学科の教育的効果を配慮しながら学科教員や農場教職員等が指導にあたっています。

農学部 ┬ 伊勢原農場
　　　 └ 富 士 農 場　　国際食料情報学部－宮古亜熱帯農場　　生物産業学部－網走寒冷地農場

## 伊 勢 原 農 場

伊勢原農場は、棚沢水田を含む農場からなっています。伊勢原農場は、小田急線の北側、丹沢大山山系南東麓の神奈川県伊勢原市三ノ宮に位置し、南に相模湾を臨む南向き緩斜面にあります。気候は比較的温暖で、柑橘栽培の北限に位置します。農場の用地は約３haで、ほぼ平坦な地形にあることから、集約された農場として効率的な運用が見込める農場であり、主に園芸（果樹・野菜・花卉・造園）に特科した実践実習教育の場として整備が行われています。平成22年度に農場整備に着手し、平成23年度は、露地野菜・造園および農業機械の実習が可能になり、現在これらの部門では実践実習教育が実施されています。また、平成23年春に果樹棚が完成し、植栽計画に沿った土壌改良が実施され、平成24年春に果樹苗を定植しました。さらに平成24年度は、花卉および野菜のガラス温室や造園の雨除けハウスが完成し、冬季から翌春に向け花卉および野菜の施設移転を実施し、厚木農場から伊勢原農場への移転が終了します。

棚沢水田は、伊勢原農場から北方約15㎞に位置した中津川水系の厚木市棚沢地区に面積2.9haを有し、現在水稲を専門に行っていますが、近い将来、工芸作物と集結して実習教育と研究をする計画で進んでいます。

工芸作物は移転準備が整うまでは、厚木キャンパス内で実習教育と研究を継続して実施します。

# 伊 勢 原 農 場

所在地　神奈川県伊勢原市三ノ宮字前畑1499-1
電　話　046－374－5437

野菜管理実習

ブドウ袋かけ実習

茶の収穫

シクラメン調整実習

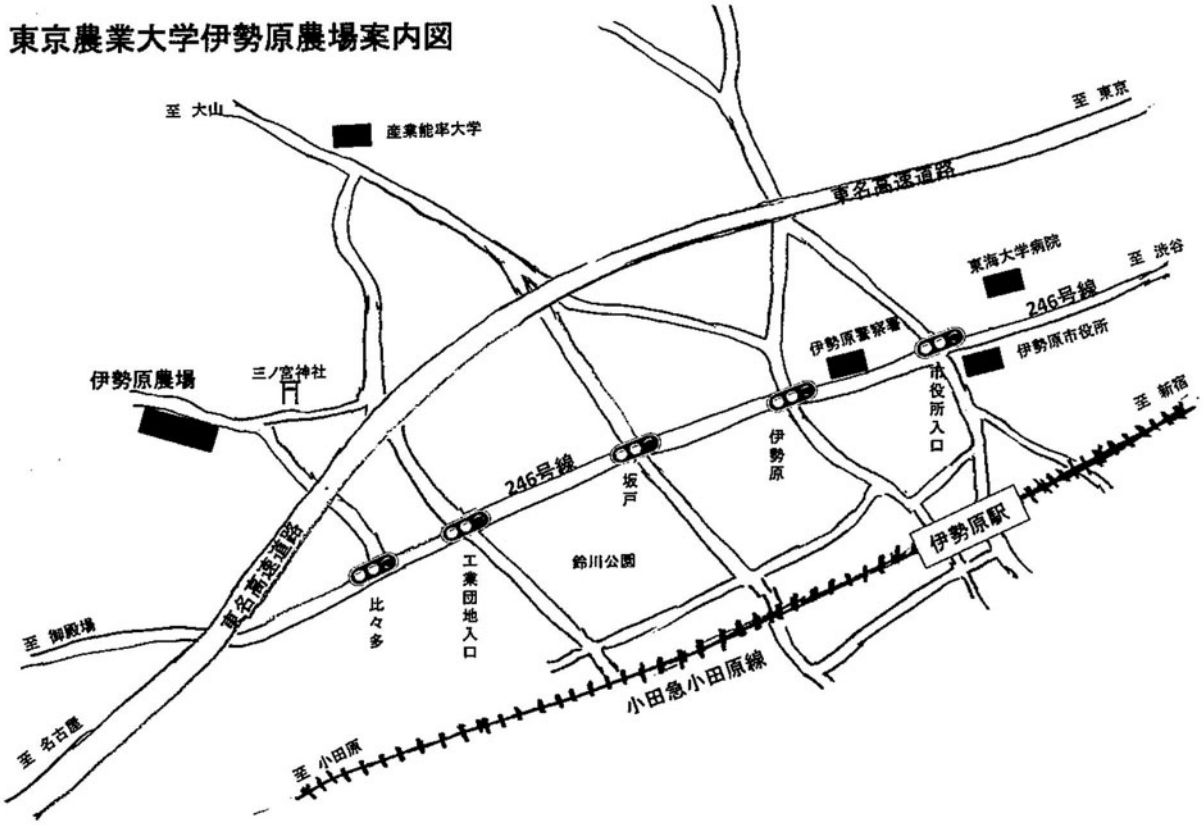
ミカン収穫実習

脱穀実習

大圣木の移動実習

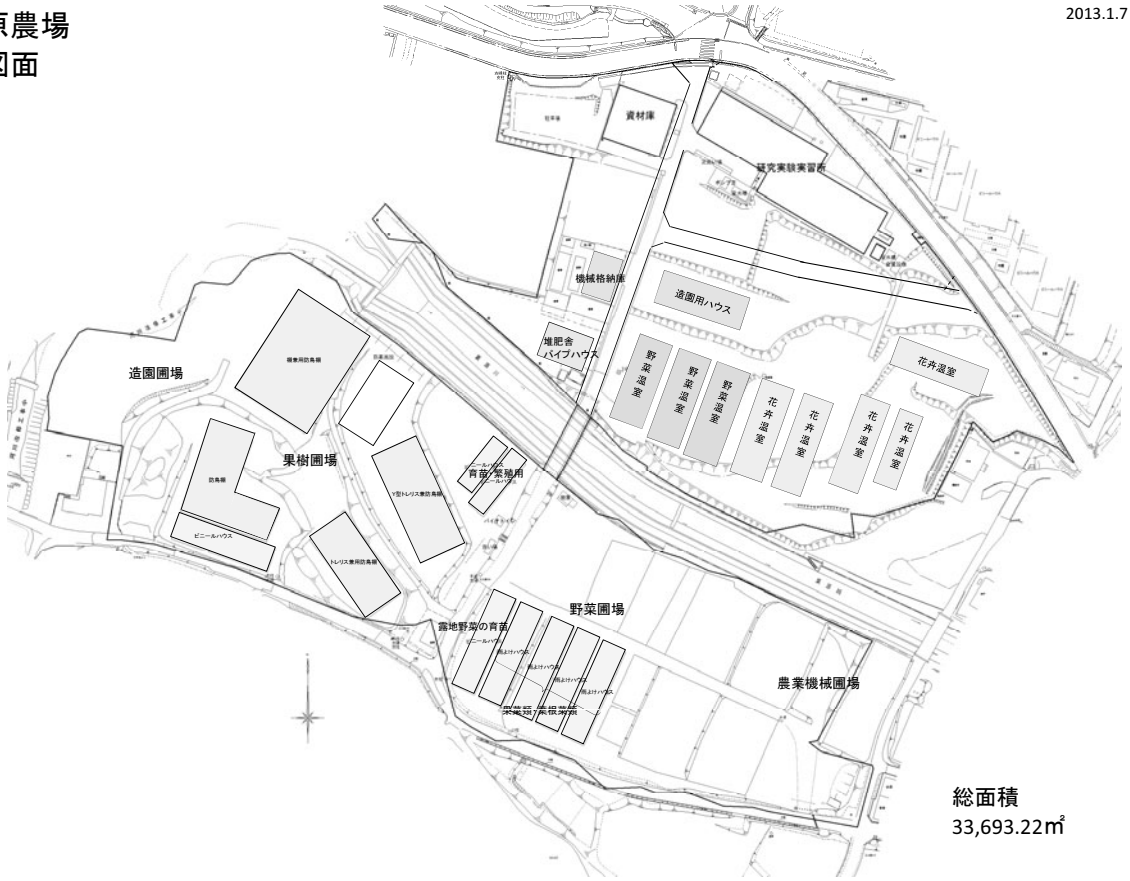
マルチ敷設実習

## 東京農業大学伊勢原農場案内図




## 伊勢原農場
## 施設図面

2013.1.7



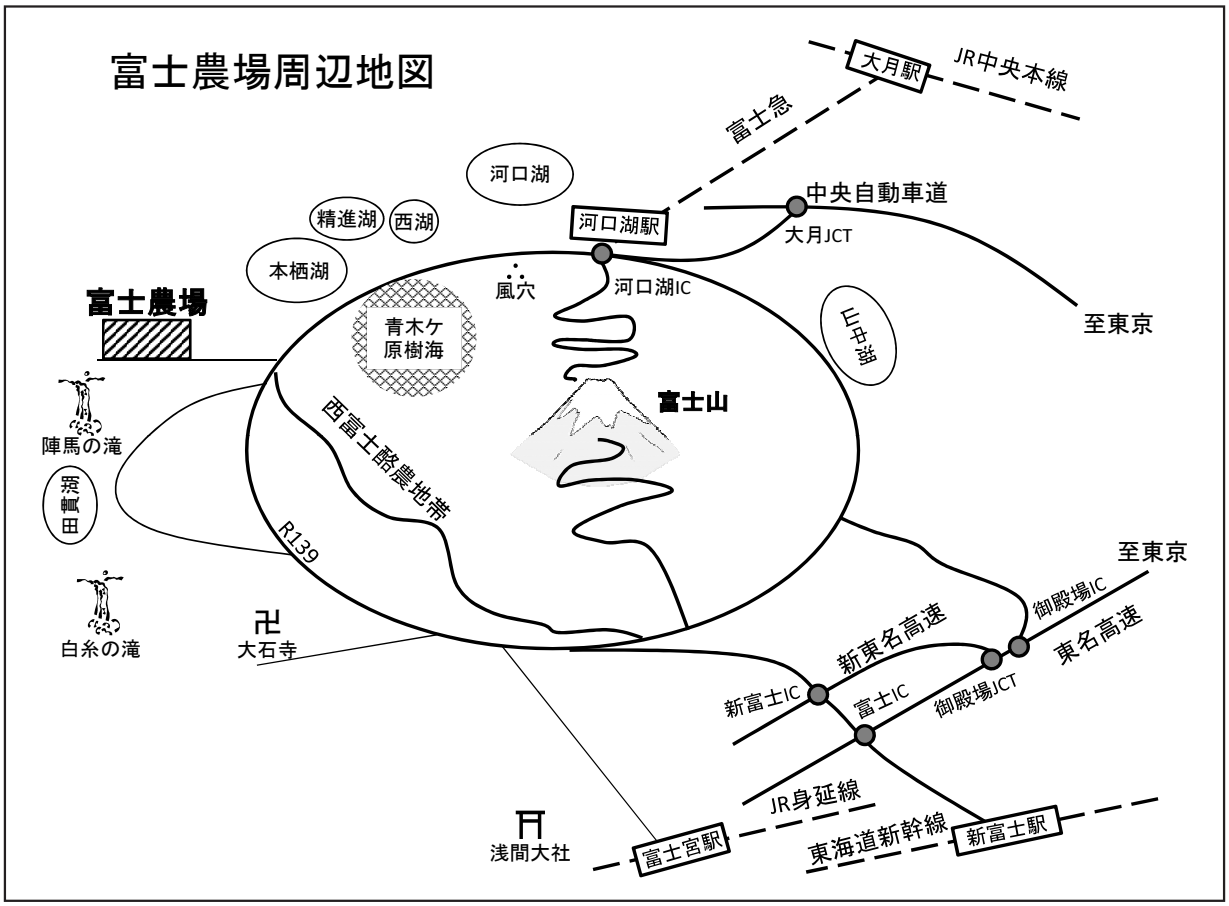

総面積
33,693.22㎡

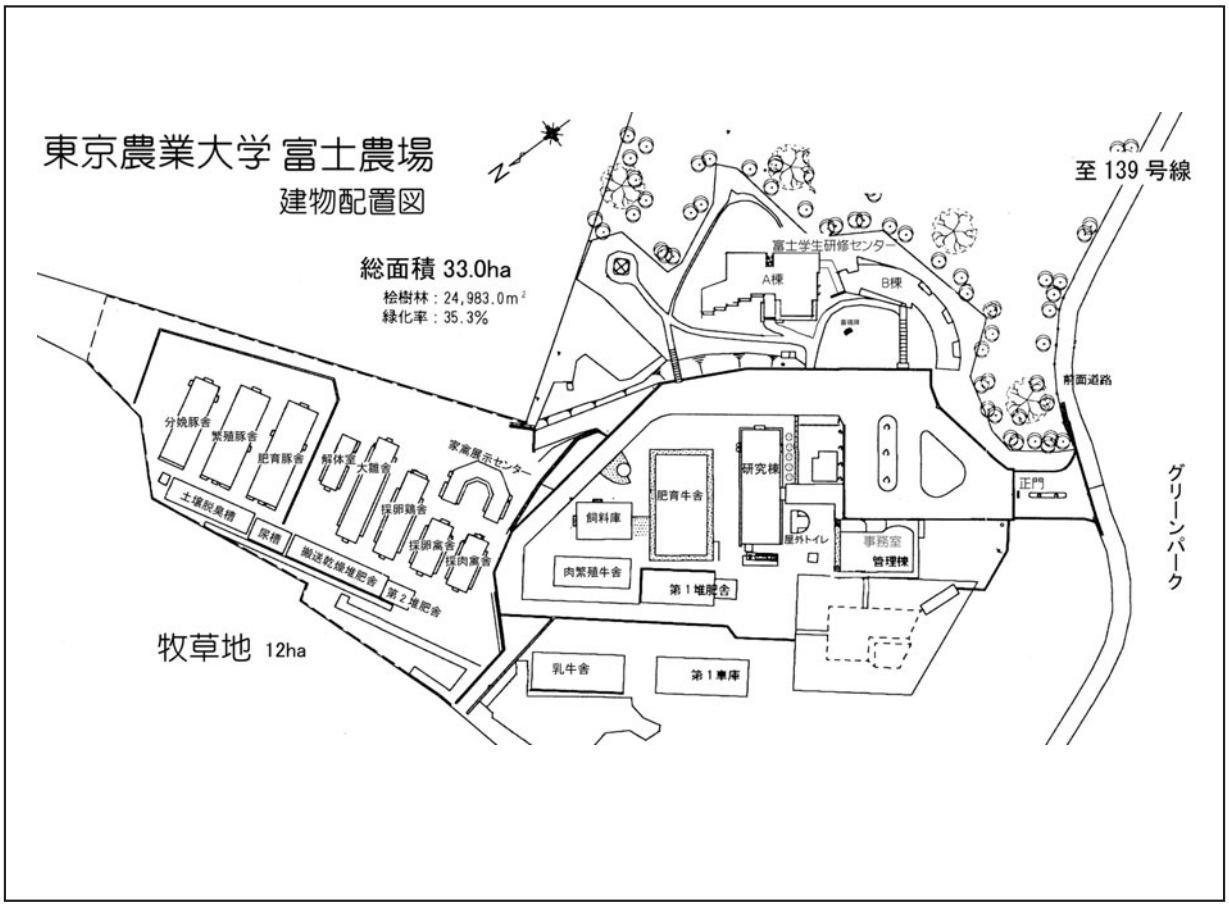
# 富士農場

昭和16年開場の富士農場は、本学の農場・演習林の中でも最も歴史のある農場で平成13年に60周年を迎えました。開場時は専門部農村経済学科の修練農場として発足しました。当時は太平洋戦争開戦直前であり、日本海軍から依頼されたイチハツやグラジオラスなどの試験栽培から始められ、多くの作物が持ち込まれたが毛無山の影響をうける日照不足と多雨によってどれも生産に結びつけることが出来ませんでした。昭和40年代に入って地の適正から畜産への取り組みが本格的に始まると昭和50年代初頭にはこれが軌道に乗りました。また平成元年に那須牧場、平成２年に厚木農場養鶏・養豚部門を統合し今日の農場を形成するに至っています。

本農場は標高830ｍの朝霧高原に立置し、総面積33haを有し、東には日本の象徴である雄大な富士山を俯瞰し、西には標高1,946ｍの毛無山を仰ぎ見る絶景の地にあります。この毛無山周辺には、絶滅危惧種でユリ科の植物スルガジョウロウホトトギスやフジミズラモグラをはじめとする小型哺乳動物２目３科12種、天然記念物のハコネサンショウウオなど植生においても棲息においても貴重な自然が残されています。

農場周辺は西富士開拓として有名な酪農地帯ですが、畜産基地建設事業による養鶏・養豚団地、静岡県設置の畜産試験場などもあり畜産関係の実習教育と試験研究には格好の場となっています。さらには東海自然歩道が農場近くを通るなど、アウトドア・レクリエーションや場内設置の環境フィールドなど畜産のみならず造園・造林学の学習においても有意義な教材を提供し、全農大生、教育後援会ご父母、小・中・高校生に親しまれています。


富士農場周辺地図
大月駅
JR中央本線
富士急
河口湖
中央自動車道
精進湖
西湖
河口湖駅
大月JCT
本栖湖
風穴
河口湖IC
富士農場
青木ケ
原樹海
山中湖
至東京
富士山
陣馬の滝
西富士酪農地帯
田貫湖
R139
至東京
御殿場IC
白糸の滝
大石寺
新東名高速
東名高速
新富士IC
富士IC
御殿場JCT
JR身延線
浅間大社
富士宮駅
東海道新幹線
新富士駅


東京農業大学 富士農場
建物配置図
N
至 139 号線
総面積 33.0ha
桧樹林：24,983.0m²
緑化率：35.3%
富士学生研修センター
A棟
B棟
前面道路
分娩豚舎
繁殖豚舎
肥育豚舎
解体室
大雛舎
家畜展示センター
採卵鶏舎
採卵窩舎
採肉窩舎
土壌脱臭槽
尿槽
搬送乾燥堆肥舎
第2堆肥舎
肥育牛舎
研究棟
飼料庫
屋外トイレ
事務室
管理棟
正門
肉繁殖牛舎
第1堆肥舎
グリーンパーク
牧草地 12ha
乳牛舎
第1車庫

# 宮古亜熱帯農場

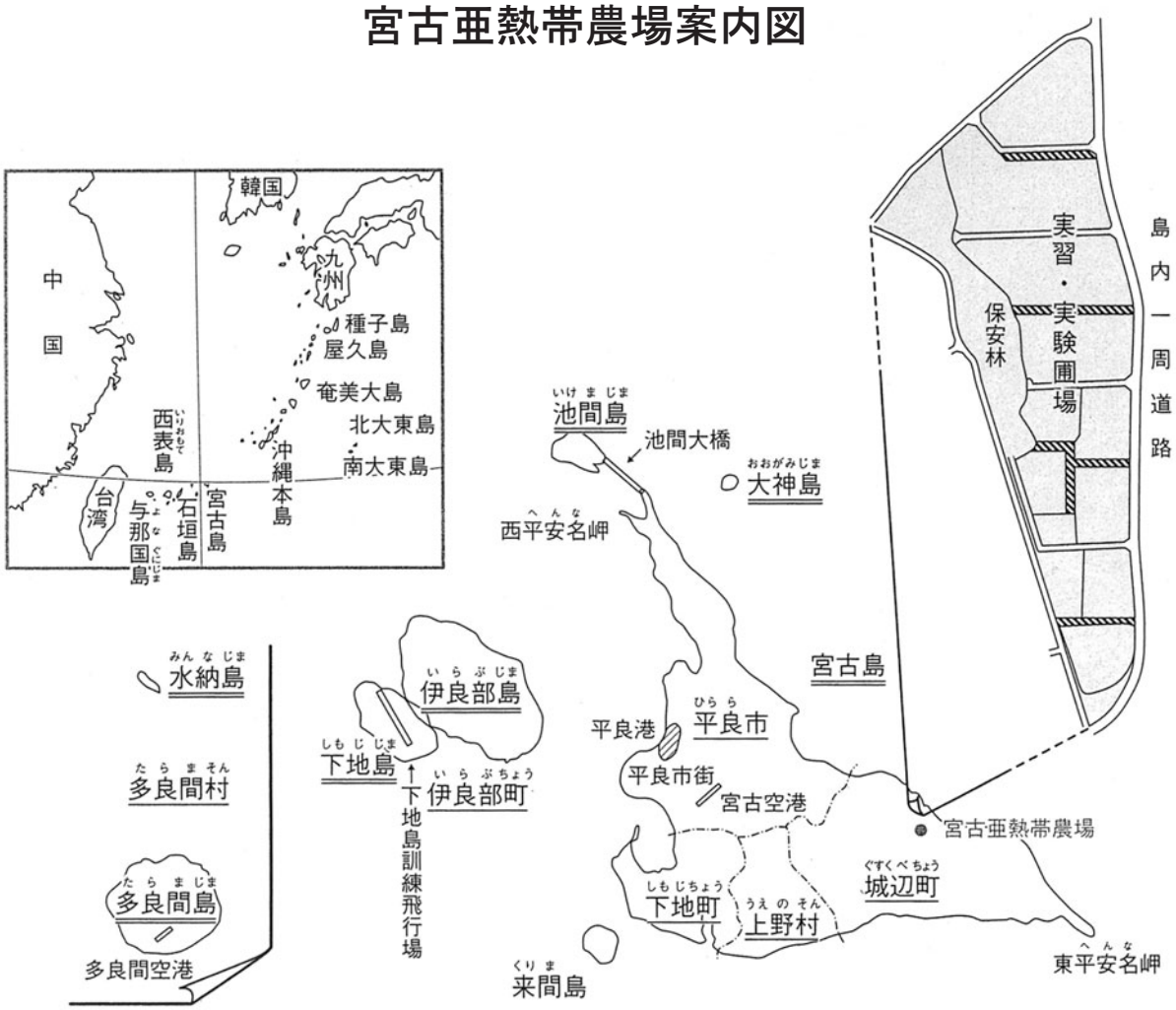
本農場のある沖縄県宮古島は、北緯24度から25度、東経124度から125度の間に位置し、沖縄本島と台湾のほぼ中間にあります。年平均気温は23℃、平均湿度80％と亜熱帯海洋性気候に属し、島は年間をとおして緑につつまれ、近海は色とりどりのさんご礁に囲まれています。このように豊かな自然に恵まれた宮古島は、観光地としてはもちろんのこと、全日本トライアスロン大会の開催地としてスポーツアイランドの名をはせ、また、近年では、風力発電、太陽光発電の研究施設を誘致するなど、エネトピアアイランドとしても注目されつつあります。

産業面では宮古島は目下開発の途上にあり、農地の基盤整備をはじめ、世界的にも珍しい地下ダムの建設、各種公共施設の整備などが急ピッチで進められています。とくに農業に関しては、地下ダムの水を利用した灌漑施設の整備とあわせ、環境保全を考慮しつつ従来のサトウキビ・モノカルチャーから作物の多様化への試行がなされており、今まさにダイナミックな変貌を遂げようとしています。

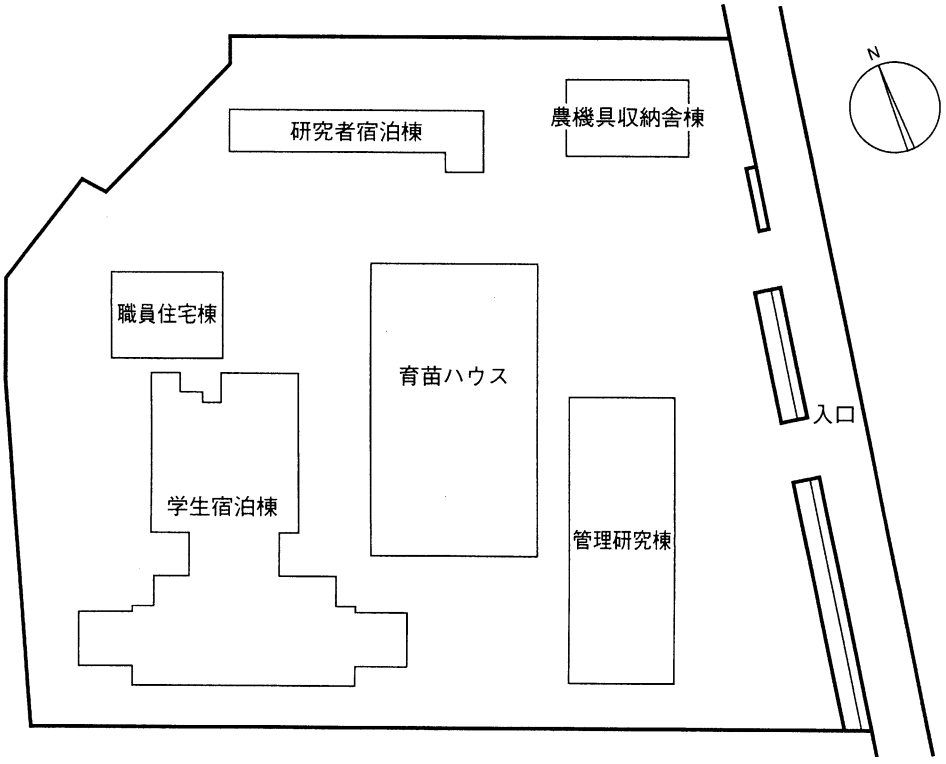
宮古亜熱帯農場はこのような環境下で、熱帯農学に基づく熱帯・亜熱帯農業の実習教育と試験研究を行うことを目的として設置されました。本農場は、宮古島の地域自治体等との協力により、地域農業の発展や農業生産環境の保全を共に考え、これらの活動を通じ地域と共に歩むことを基本姿勢のひとつとしています。農場面積は約10haで、現在、農場施設として管理研究棟、学生宿泊棟（72名収容)、研究者宿泊棟、農機具収納舎、職員住宅及び育苗ハウスが設置されています。農地はほぼ整備も終わり、一部は防風林の苗木の他、マンゴー・バナナ・サトウキビなどの熱帯果樹園・工芸作物類の植栽圃場にあてられ、すでに実習・研究圃場として利用されています。また、国際農業開発学科の学生（約200名）が地域関係諸機関および農家の協力のもとで毎年１週間の実習を行う他、教員や院生の研究及び学部学生の卒業論文研究の場として利用されています。

また、本農場における熱帯農業や熱帯の食糧生産環境に関する幅広い研究教育の実施は、わが国が世界から期待されている発展途上国との国際協力活動においても、とりわけ熱帯地域の農業開発協力に携わる人材育成にも大きく貢献し得るものとなっています。

# 宮古亜熱帯農場案内図




# 宮古亜熱帯農場施設配置略図



# 網走寒冷地農場

国定公園小清水原生花園「トウフツ湖」南畔にひらける、日本有数の大規模畑作農業が展開する網走市に位置する網走寒冷地農場は1982（昭和57）年、生物産業学部の開設1989（平成元）年に先駆け、寒冷地大規模畑作の実習と産・官・学が一体となった教育と研究を推進し、地域と共に歩む大学農場を目指して開設されました。

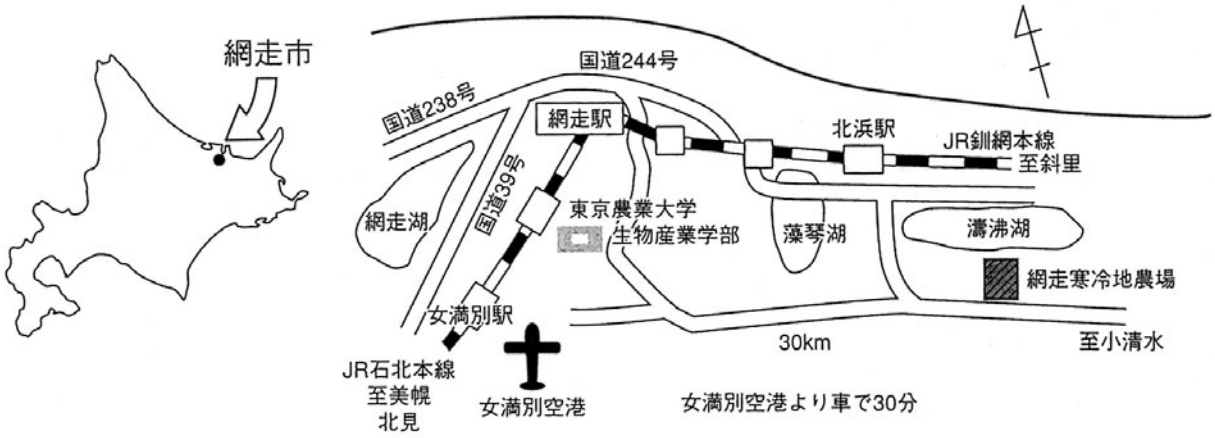
約21haの圃場には、北海道を代表する畑作物（秋播き小麦・ビール大麦・馬鈴薯・てん菜）の他に根菜類（ナガイモ・ゴボウ・ダイコンなど）が栽培され、当農場職員が農家資格を有し、地域営農集団組織の一員となって地域農家と共に組織的な運営を行っています。同時に、試験圃場による試験・研究が行われ、地域農業の発展にも大きく寄与しています。

この農場はリアリティのある地域農業問題の解明を通してこれからの新しい農業の構築をめざすことを基本理念として掲げ、営農・教育・研究が三位一体となりながら、本学の「実学主義」を具現化できるユニークな大学農場です。

知床の山々や波静かなオホーツク海など豊かな自然環境に恵まれた北海道の網走市では､オホーツクブルーの空の下、日本有数の先端的な大規模機械化畑作農業が営まれています。機械や施設は集団で所有して利用と作業は共同で行い、また、共同で生産資材を購入、生産物を販売しています。当地の畑作農業の経営はこのような営農集団方式を取り入れ、高生産農業として注目されています。

学生の実習風景（てん菜の補植作業）

# 網走寒冷地農場案内図




# 網走寒冷地農場全景写真

全　面　積　　42.70ha

（営農部圃場　19.01ha　　教育研究部圃場　2.20ha　　湿生林・原野　21.49ha）

# Ⅶ　食品加工技術センター

生物産業学部食品加工技術センターは、農大の建学精神である「実学主義」を実践するため、学生の食品製造に関する実習の授業や卒論研究などに利用されています。この施設では９業種について保健所より営業許可を取得しており、衛生面においても十分配慮された施設になっています。設置してある設備は、農、水、畜産物の多くの食品加工に対応しており、特に乳製品加工はすべての製造が可能です。また、100リットル規模のビール醸造設備を設置、税務署よりビールおよび発泡酒の試験醸造免許を取得し、日本の大学では唯一ビールの醸造研究ができるのも大きな特徴です。

一般企業からの製品開発にかかわる委託研究なども多く、その成果は各社に還元し役立っています。そのほか、一般市民や高校生などを対象とした食品製造の実習なども行っており、学内だけでなく広く地域にも貢献しています。さらに本学部では食品加工に関する同好会が組織されており、その活動にも当センターが利用されています。

このように、当センターは食品加工に関するいろいろな面での教育研究、地域活性化などに貢献しており、実際に多くの新製品も生まれています。

# Ⅷ　オホーツク臨海研究センター

オホーツク臨海研究センターは、平成18年度、本学学生に対する水圏に係わる教育および研究を行うことを目的に、能取湖畔の網走市共同利用施設用地内に設置されました。本センターの役割のひとつは、学部学生の臨海実習の受け入れです。臨海施設でなければできない、海を体験しつつ、生きた生物にふれながら行う実習が工夫されています。すべての大学が臨海施設を持っているわけではないので、本学の学生は恵まれた環境にあるといえます。

もうひとつの教育上の役割は、学部学生による卒業論文のための調査実験、大学院学生による修士および博士論文のための調査研究の場を提供することです。さらに、本センターでは、教員の先進的な研究が行われ、また、他大学等の人々が来所して研究することもあります。それらの調査研究は、主として、オホーツク海における物理化学的環境と生物の活動およびそれらの相互関係に関する知見、海洋資源の合理的な開発利用に必要な知見、海洋の環境と生態系の保全と修復に欠かせない基礎的知見などを求めることに役立ちます。

そのような研究を円滑に実施するためにも、まず、産業的に有用か否かに関係なく、四季を通じてさまざまな海洋生物を採集して、この海域における生物相を明らかにしなければなりません。それらの生物を培養飼育して究明される生理学、発生学、遺伝学、生化学などは、それ自体がアクアバイオ科学領域における今日的な研究課題であるのみならず、それぞれの生物を資源として利用するために欠かすことができない知識となるものです。さらに、実際の海に出て行われる生態学的研究の成果は、自然の環境と生態系の保全と修復に必要不可欠です。それゆえ、オホーツク臨海研究センターには、そうした研究ができるように各種の実験室が配置され、調査実習艇を含む調査研究の設備も整えられています。

このような調査研究には、学生と教職員との強い連携協力が必要であり、ときには夜を徹しての作業が必要になります。そのため、本センターの実験研究スペースは多人数を受け入れるように設計されており、また、隣接する網走市水産科学センターの宿泊施設の供与が受けられることになっています。